

FLORA KANAGAWA

Jul. 7. 2003 No. 55

神奈川県植物誌調査会ニュース第55号

〒250-0031 小田原市入生田499 県立博物館内 神奈川県植物誌調査会

TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846

e-mail katsu@nh.kanagawa-museum.jp

郵便振替 00230-5-10195



ニセカラクサケマン。詳しくは本文664ページを参照。

秋山幸也:相模原市内でニセカラクサケマンを確認	664
秋山幸也:オニナルコスゲの県内採集標本見つかる～『相模原植物誌－標本目録－』から ..	665
浜口哲一:専用ソフトによるデジカメ画像の整理	666
城川四郎:ハリゲナタネについて	668
城川四郎:ヒメアメリカアゼナに関連して	670
勝山輝男:キンギンナスビモドキ(ナス科ナス属)の正体が判明	672
高橋秀男:ツキミマンテマ	672
逢沢峰昭:「林ほか(1961):丹沢山塊の植物調査報告」の標本について	673
野津信子・佐々木シゲ子:黄色い花弁のあるウマノスズクサ科植物	684
田中徳久:『神奈川県植物誌2001』に用いたデータによる市町村および地域メッシュごとの植 物数	684
佐々木あや子:ウズマキウマゴヤシについて	688
勝山輝男:日本新産の帰化植物サヤシロスゲ	688
木場英久:新帰化植物,ズングリオヒシバ	689
木場英久:セイヨウチャヒキ	690
事務局:2003年度総会報告	690
各ブロックの活動報告[高橋秀男:横浜ブロック,吉田多美枝:川崎ブロック,大森雄治:三浦ブロック, 浜口哲一:湘南ブロック,佐藤恭子:県央ブロック,秋山幸也:相模原ブロック]	692
事務局:FLORA KANAGAWA No.54の訂正	694

相模原市内でニセカラクサケマンを確認

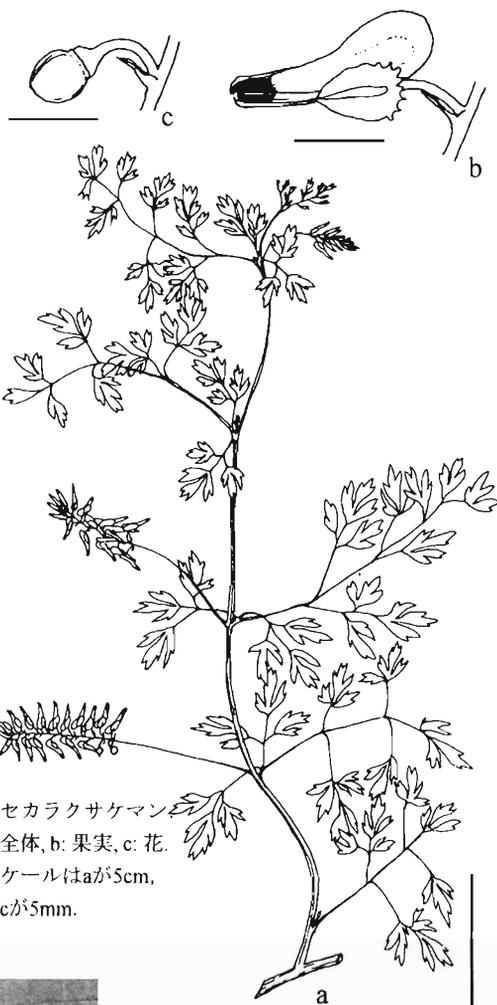
(秋山幸也)

松本雅人氏が、またしても県内新産の外来植物を持ってこられた。ニセカラクサケマン *Fumaria capreolata* L. である。市内を走る国道16号線の、大和市との市境に近い路傍に咲いていたと言う。早速筆者も確認に出かけた。

写真のとおり、自動車用品店(相模原市上鶴間中和田)の駐車場出入り口付近に立つ街路樹(ケヤキ)の植込み1か所に、ケヤキの根元を被うように繁茂していた。付近を見ると、歩道を隔てた店の看板の立地(地上70cmほど)からはみ出るように生えている他は見あたらない。多数に枝分かかれし、言うように地面をおおっている茎を持ち上げると、どうやら、園芸用の培養土のようなものが撒かれており、その中からもうもうと茂っていた。

ちょうど花盛りであったが、一部には偏球形の未熟な果実ができていて、中には1個の種子が入っていた。これが、鞘状に複数個含まれるキケマン属 *Corydalis* と本属の大きな差異である。

花は葉腋から伸びた花柄に総状に20花ほどつく。花冠は白色で、先端は濃赤紫色、長さ12mm、基部に距を持つ。2枚のがく片は花冠を挟むようにつき、卵形で花冠と同色、長さ約



ニセカラクサケマン
a: 全体, b: 果実, c: 花。
スケールはaが5cm,
b, cが5mm。



あざやかな淡緑色の葉に白い花が目立つニセカラクサケマン。
2003.4.19 秋山幸也撮影。

5mm、中央に淡緑色の脈が透けている。果実は現在のところ未熟しか見ていないが、やや縦長で扁平な球形で、長径2.5mm。苞葉は披針形で約3mm、果柄より短い。葉は3~4回羽状複葉で、裂片はへら形~ひし形で先端が不規則に深裂する。茎葉は無毛で、茎には稜がある。

Fumaria 属は在来種がなく、県内では外来品の記録も無く資料に乏しいが、上記の特徴を含めて、分類は『世界の雑草 II 離弁花類』(竹松ほか, 1993) に詳しい。本書では日本で未見としているが、

『沖縄植物野外活用図鑑第7巻』(池原, 1989)には石垣島で野生化した写真が掲載されている(和名はここで新称されている)。また, 2001年には大阪府枚方市の淀川河川敷でも野生化が記録されている(田中光彦氏私信)。『世界の雑草II』によれば, *Fumaria*属は世界に60種あり, 他のケシ科植物と同様, 薬用として栽培されている。また, 本種については世界の暖帯に広く分布する畑地雑草とのことである。

本種を調べる過程で気づいたが, 先頃刊行された『日本の帰化植物』(清水, 2003)のカラクサケマンの写真は, 葉の形状からおそらくセイウエンゴサク *F. muralis* Sond.あたりと思われる。また, 『日本帰化植物写真図鑑』(清水ほか, 2001)のカラクサケマンの写真は, ここで紹介したニセカラクサケマンの生品とそっくりである。カラクサケマン *F. officinalis* L.については, 『原色日本帰化植物図鑑』(1976, 保育社)に詳細な図入りで掲載されているが, 『世界の雑草II』の記述と若干異なる点もある。世界に広く分布するものの国内では資料に乏しく, 同定には種子の形状などを含め詳細な検討を要するようである。国内の文献類も混乱が見られるため, 今後の動向とその記載には注意を要するだろう。

生育情報をお寄せいただいた松本雅人氏と, 和名についての情報をご提供いただいた近畿植物同好会の植村修二氏および淀川での生育情報をご提供いただいた同会の田中光彦氏に深く感謝いたします。

標本: 相模原市上鶴間中和田, SA-4, 5339-23-26, 2003.4.19 秋山幸也 SCM16538

参考文献

- 長田武正. 1976: 原色日本帰化植物図鑑, p.295. 保育社
清水建美. 2003: 日本の帰化植物, p. 78, pl. 25. 平凡社
清水矩宏ほか. 2001: 日本帰化植物写真図鑑. p.80. 全国農村教育協会
杉本順一. 1983: 増補改訂日本草本植物総検索誌I 双子葉編, p.180. 井上書店
竹松哲夫・一前宣正. 1993: 世界の雑草II 離弁花類, pp.493-502. 全国農村教育協会
池原直樹. 1989: 沖縄植物野外活用図鑑第7巻 シダ植物～まめ科, p.206. 新星図書

オニナルコスゲの県内採集標本見つかる～『相模原植物誌一標本目録一』から

(秋山幸也)

本号のブロックの活動紹介記事にもあり, 本年3月に, 相模原市立博物館資料目録の一環として『相模原植物誌I一標本目録一』が刊行された。これは, 『神奈川県植物誌2001』の標本リストから相模原市内採集品を抽出し, さらに, 当館で2002年10月までに新たに採集されたものと, 新規登録された寄贈資料を加えた標本目録である。

特に, 「神植誌2001」への登録に間に合わなかった桐生亮コレクション(これは昆虫と植物を併せて2001年に目録が刊行されている*)については, 半世紀以上前から1980年代前半までに採集された貴重な標本が多数含まれている。その代表格としては, FK No.52(2002)で表紙を飾ったヒメハッカ(県RDB³絶滅種)が挙げられる。そして, その後の作業の中で, 新たにオニナルコスゲ *Carex vesicaria* L.の標本を確認したので報告する。

本種は県RDBでは消息不明種とされ, 「神植誌2001」においても確実な分布記録が見いだされず(480p), 「神植目33, 神植誌58」は産地を引用せずに名前をあげ, 帝国女子医学薬学専門学校(1932武蔵登戸付近植物目録)に記録があるが, 標本は確認していない。」とある。従って, 今回確認したものが, 現在のところ県内採集の唯一の標本となる。

桐生亮コレクションには, 他にもいくつかの稀産種の標本が含まれているが, まだ確認作業が追いつかず報告には至らない。近々, 本誌で紹介したいと考えている。今回の標本を確認していただいた勝山輝男氏と堀内洋氏に感謝いたします。

標本: オニナルコスゲ 相模原市大沼 1957.6.9 桐生亮 SCM00814

文献

- *1 桐生亮コレクション標本目録(2001.相模原市立博物館)
*2 神奈川県レッドデータ生物調査報告書(1995.神奈川県立生命の星・地球博物館)

専用ソフトによるデジカメ画像の整理

(浜口 哲一)

はじめに

筆者がデジカメでの撮影を本格的に始めたのは、2002年5月のことである。最初は、あくまで銀塩カメラの補助にと思っていたのだが、A4サイズであれば、プリンターで打ち出して鑑賞に耐えるプリントが簡単にできること、また何より画像の管理が容易で、欲しい画像をたちどころに選べる便利さに惹かれて、結局はデジカメばかりを使うようになってしまった。ホームページを作るとか、パソコンの画面を投影しながら話をするようなことも増えているので、もう銀塩カメラには戻れそうもないと感じている。

デジカメについては、さまざまなマニュアル本や雑誌が出ていて、植物の撮影についても、露出やホワイトバランスなど技術的な情報はたくさん手に入れることができる。また、画像を好み通りに補正する方法も微に入り細に入り解説がされている。しかし、撮影画像の整理についてふれた記事はあまり見られない。調査会の会員の中にも、デジカメ愛用者が増えていると思うので、そのあたりを中心に筆者の経験を紹介してみたい。実は、筆者がデジカメについて真剣に考えるようになったきっかけの一つは、大場達之先生が書かれた「植物研究者から見たデジタル画像事情」という文章であった(大場,2001)。その中から、今回の小文の内容についても多くのヒントを得ていることを記しておきたい。

なお、デジカメの機種自体については、ここでは深入りしないが、自分のもの、職場のものなど数機種を渡り歩いた結果、筆者が現在もっとも頻度高く使っているのはNIKONのCoolpix 4500という機種である。オートフォーカスの精度が比較的よいこと、2cmまで近寄れて接写ができること、収納がしやすいこと、植物とは関係のないことだが望遠鏡に接続できることなどが気に入っている。400万画素だが、A4判のプリントはきれいにできるし、印刷原稿としても幅13~14cmくらいまでは大丈夫なので、実用には十分である。デジタル一眼レフについては、埃の掃除が大変だというので、道具を丁寧に扱う習慣のない筆者ははなから敬遠しているが、撮影面から考えると妥当な判断ではないのか

もしれない。他の方の経験も披露して頂ければと思う。

ところで、デジカメで植物を撮影するようになって、観察の面で思わぬ効果があった。それは、画像整理の段階でパソコンの画面いっぱい拡大して見る機会があるので、花などについて細かい点がよく分かるということである。たとえば、タネツケバナの花序を写すと、花弁が開き、葯が開いて花粉をこぼし、それがしおれてから柱頭が目立ってくるといった変化が、きれいに写しとられている。現地でルーペを使えば分かることとはいえ、それを落ち着いて机上で観察できるのはなかなか楽しいことである。

画像の保存

どの機種のデジカメでも、撮影された画像は、日付+通し番号のようなファイル名でメディア(コンパクトフラッシュなどの記憶媒体)に保存されている。画像整理の最初のステップは、その画像を自分のパソコンの中に保存することである。

パソコンの中のファイルの格納場所をフォルダと呼ぶが、筆者は、まず「2003年」といった撮影年のフォルダを作り、その中に「1月」などの撮影月のフォルダ、さらにその中に、ある1日に同じ場所で撮影したものを単位として「030304高麗山」といったフォルダを作っている。これは、2003年3月4日に高麗山で撮影したという意味である。

具体的な保存のしかたについては、パソコンのOSによって事情が異なってくる。Windowsの場合、Windows xpでは画像の入ったメディアをPCカードスロットなどに差し込むと、保存のウィザードが立ち上がり、フォルダ名を聞いてくる。そこに「030304高麗山」と指定すれば、自動的に「030304高麗山001.jpg」のように連番のついたファイル名で保存してくれる。古いOSでは、このあたりが手作業になるので、なかなか面倒くさい。多くの撮影をする場合には、最新のOSを持ったパソコンにせざるを得ないだろう。

なお、最終的な保存場所については、120GBの外付けハードディスクを使っており、バックアップとしてCDへの保存も並行して行っている。

なぜ画像管理ソフトが必要か

このようにパソコンに移しておけば、とりあえず画像を保存することができる。マイコン・コンピューターで画像ファイルを指定すれば、拡大して表示することもできるし、Photoshopのような画像を扱うソフトがあれば、サイズを変えたり色をいじったりすることも自由にできる。

しかし、画像が増えてくると、どこにどんな画像があるかを調べるのがなかなか大変になってくる。Windows xp では、95とか98の時代に比べて、画像の扱いが格段に進歩しているとはいえ、まだまだ使い勝手が悪い点がある。何よりも、フォルダを開く時に、その都度サムネイル(小画像)を作りに行くので、時間がかかる。重い画像があったり、数が多いと、数分、時には十数分かかることがあっていららする。たくさんのフォルダを開いて画像を探すのは、よほど根気のよい人でないと無理だろう。

多くのデジカメでは撮影時に、年月日・露出・フラッシュの有無などを記録したExif情報と呼ばれるものを作成して、画像に付加しているが、Windowsだけでは、その情報を見ることができない(ようだ?)。また、Windowsで画像ファイルのプロパティを見ると、キーワードとかコメントを入れられるようになっているのだが、それを使って検索する仕組みが作れるのかどうかは不透明でよく分からない。

こうしたわけで、多数の画像を活用していくためには、その閲覧や管理をするための専用ソフトが必要だということになる。特に重要なのはキーワードをつけられることで、たとえばマルハナバチがツリフネソウにきている画像があったとして、それをツリフネソウからでもマルハナバチからでも探せる便利さはたいへん重宝である。

「サムズプラス」の機能と利点

画像管理ソフトとしては、さまざまなものが市販されており、その選択に迷う。しかし、その多くは、こざいなるアルバムを作るとか、画像の修正などに機能の重点がおかれていて、純粋に画像を管理するという目的にはそぐわないものがほとんどである。筆者は、パソコン雑誌の記事や広告を読んだり、体験版を使ってみたりしたうえ、結局「サムズプラス6.0J」というソフトを使

うことにした。ここ半年ほど、それを使っているが、使い勝手にはおおむね満足している。なお、このソフトは、ビレッジセンターという会社で扱っており、価格は1万円弱、体験版の入手はホームページからのダウンロードが便利である(<http://www.villagecenter.co.jp/soft/thmpls6/>)。

サムズプラスでは、画像の保存されているフォルダを指定すると、サムネイルと呼ばれる小画像を作り、ちょうどベタ焼きのように並べて表示する。その1枚を選んで全画面表示をする、フォルダ内の全部のファイルをスライドショーで順次見る、ベタ焼きをプリントする、指定した画像をプリントアウトするなどの作業が簡単に行える。また、各画像にキーワードを割り当てることができ、キーワードはファイル名、サムネイルなどとともにデータベースに格納される。そのキーワードやファイル名を使って検索を行うこともできる。このソフトの使いやすい点としては、上記とやや重複するが、次のような点があげられる。

- 1.サムネイル表示が早い／最初にフォルダを開いた時に、サムネイルを作り、その画像をデータベースに保存しておく仕組みになっている。そのために2回目からは、即時に画像一覧を見ることができる。
- 2.各画像にキーワードが割り当てられる／任意のキーワードを任意の個数だけ割り当てられる。画像管理ソフトは、キーワードがつけられることをうたっているものが多いが、予め指定された語彙から選ぶだけであったり、個数の制限がある場合も多い。
- 3.複数のファイルに対してキーワードの割り当てが同時にできる／作業効率上、非常に重要な機能。
- 4.キーワードを使って検索ができる／指定したドライブにあるすべての画像ファイルについて、キーワードまたはその一部で検索をかけることができる。画像管理ソフトの中には、一つのフォルダしか検索対象にできないものもある。
- 5.検索の結果、選択された画像を別のフォルダに簡単にコピーできる／たとえばホームページの作成のために、ウメの画像が必要だとすると、「ウメ」というキーワードで検索し、選ばれたファイルの中から必要なものを、別フォルダ

にサムネイルをドラッグアンドドロップすることで、元画像自体もコピーすることができ、そのフォルダでリサイズなどの作業をすればよい。なお、コピーするフォルダは、同じドライブに作ると移動になってしまうので、別ドライブに作る必要がある。

6.Exif情報を見ることができる／撮影の年月日時分秒、露出などの情報が見られる。必要ならその情報をデータベースに加えていくこともできる。

7.データベースを他のソフトに書き出せる／データベースをAccessに書き出すことができる。ということは、テキストデータとして、他のソフトにも読み込むことが可能だということになる。

8.Accessと同じで、データベースを書き替えるごとに自動的に更新していくので、作業中にこまめにバックアップをとる必要がない。

問題点としては、アメリカ産の翻訳ソフトなので(原名はThumb's Plus. ちなみに小画像をサムネイル<親指の爪>というのは、このソフトから来ているのだという)、いささか粗っぽいところがあって、時々ハングしたり、検索がうまくいかなかったりするが実用に困るほどではない。また、一つのデータベースには1GBという容量の上限があるそうで、おそらく5万枚か6万枚程度の管理が限界になると思われる。もちろん、別のデータベースファイルを作って、検索を複数回行うようにすれば、何万枚でも管理の対象にできる。

キーワードについて

筆者が具体的にどんなキーワードをつけているかということだが、「アブラナ科;タネツケバナ;花」「ツバキ科;ツバキ;園芸品種;八重」「キク科;野菜;畑;ゴボウ;花」といった感じで、その画像を将来どんな局面で使うかを考えながらつけるようにしている。植物について、しばしば使っている言葉としては、他に、蕾・若い実・熟した実・冬芽・芽吹き・紅葉・ロゼット・越冬葉・樹冠・樹皮・大木などがある。

キーワードはまた、自分が何を写したいのかを示す言葉とも言える。園芸植物や野菜も撮影しておこうと思うので、そうしたキーワードを使うことになる。落花(地上に落ちた花)・実がら

(実が飛んだり落ちたりした跡)・隙間緑(舗道や石畳の隙間の草)・つる(他のものをおおうつる植物)・デザイン(動植物を使った意匠)などという、他人には通じないキーワードもよく使うのだが、これもまた自分の興味の方向を示すものである。

画像が多くなってくると、目的のものを探し出す手がかりはこのキーワードだけになってしまうので、なるべく多くの観点からの言葉をつけておくのが大事だと思う。

おわりに

結局サムズプラスの宣伝のような内容になってしまったが、こうしたタイプの画像管理ソフトは雑誌などで紹介されることが少ないし、この製品自身の広告もほとんど見ないので、多少の参考にはなるのではないかと思った次第である。ただし、すべてのソフトをチェックしたわけではないので、さらに安価で機能的なものがあるのかもしれないことをお断りしておく。

1年前まで数多くのスライドを撮影してきたが、整理が追いつかず、記憶のすみにあるコマをとうとう探し出せないことも多かった。捜し物をする手間から解放されたことだけでも、筆者にとってはデジカメは画期的なものであった。もちろん、致命的なトラブルも起こりうる世界ではあるのだが、バックアップをこまめにとりながら、今後も画像の蓄積に努めていきたいと考えている。

文献

大場達之,2001.植物研究者から見たデジタル画像事情.フェノロジー研究,35:1-5.フェノロジー研究会.

ハリゲナタネ について

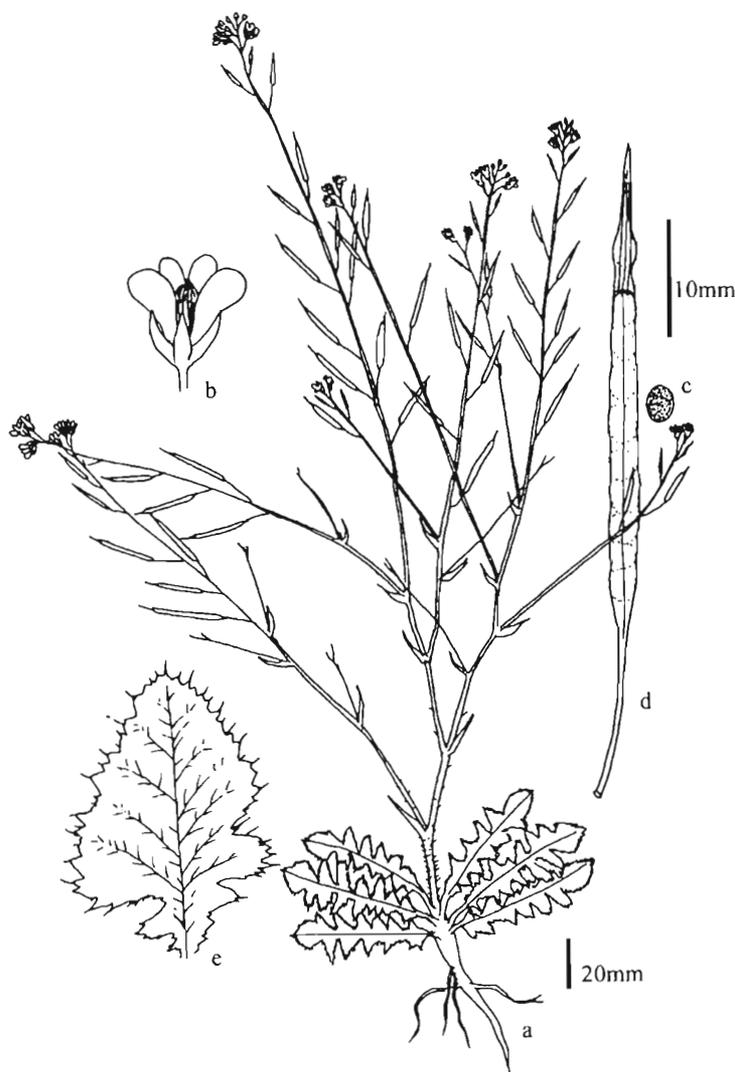
(城川四郎)

①松本雅人さんが2003.3.30に三重県四日市市で採集されたハリゲナタネ*Brassica tournefortii* Gouanと判断される標本を勝山先生の許に持参された。勝山先生はそれと同種と判断されるものを、オハツキガラシとして整理してある県内産標本の中から2枚見つけ出された。4月6日、私も勝山先生と共に松本さんの標本の検討をおこなって、標記の学名に該当することを確認した。誤認して県植物誌2001に記載できなかったが県

内にも分布があったわけである。アブラナ科を担当した責任もあり、フロラカナガワに私が書くということにして資料を持ち帰り、家でアブラナ科の資料を見ると、一昨年、やはり松本雅人さんが四日市で採取し、持参された標本を私が検討して標記学名の種として同定していたことがわかった。勝山先生から和名をつけるようにいわれながら、植物誌の原稿に追われて県内産でないものは急がないからといってそのまま果たさなかつたものである。今回、帰化植物友の会通信(2): 6(2003)植村修二氏の記事によってその和名、分布の様子などを知ることができた。

②3月採集の松本さんの標本に基づいてその特

徴を記載し、県植物誌の補遺としたい(図参照)。一年草で茎はよく分枝し高さはほ50cm。基部にだけ硬い粗毛が密に生える。葉は根生葉が6~7枚あり、頭大羽状に分裂し、長さ7~8cm、上下面、葉縁とも硬い粗毛が多い。托葉にも葉と同質の硬い毛が多い。花は淡黄色の十字花で総状花序となる。花弁はへら状倒卵形、長さほ7mm。萼片は無毛でやや紫褐色を帯び長さ3~4mm。雄ずい6個、雌ずい1個。果実(長角)は茎より開出する約10mmの果柄の上につき長さほ40mm、幅2~3mm、殻片は中肋だけが明瞭。果嘴の部分では中肋のほか平行する縦脈がある。果嘴は長さ約10mm、先は細く伸びる。種子はあず



ハリゲナタネ. 2003.3.30四日市市 松本雅人氏採集. a: 全体, b: 花, c: 種子, d: 角果, e: 葉の一部拡大.

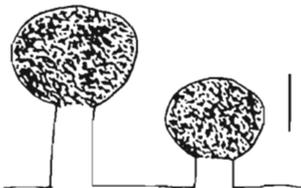
き色,類球形で8~10個が1列に果体に並び,さらに果嘴の基部にも1~2個の種子を入れる.県内産標本は川崎市川崎区白石町 1996.4.19 武井尚 KPM-NA0112751;横浜市瀬谷区上瀬谷 2000.3.27 松本雅人 KPM- NA00118627.

③果嘴に種子を入れる例はダイコンモドキ *Hirschfeldia incana*に見られる重要な特徴として承知していたが本種にもその特徴があることを知った.本種を理解した後であればその草姿や葉の硬い粗毛などの特徴で果実が無くても他種との識別が可能であるが,一般にアブラナ科において果実が無い,あっても未熟な標本で正確な所属を知ることは絶望的に困難である.本種について県内採集の標本があったにもかかわらず,所属を誤認し植物誌に記載しなかったことはお詫びしなければならないと思う.しかし,収納されている県内産標本の果実が未熟であったためと弁解もしておきたい.なお,上記植村氏の記事では全農協の日本帰化植物写真図鑑にキバナズシロモドキとして写されている写真は本種ハリゲナタネであるという.確かに草姿がそっくりでその指摘は正しいと思う.

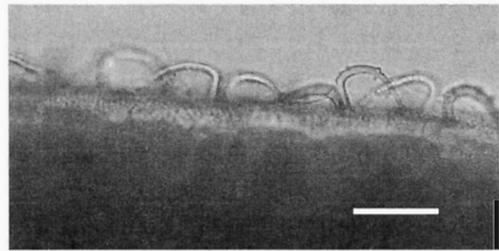
ヒメアメリカアゼナに関連して

(城川四郎)

①本誌前号(No.54)に堀内洋氏が投稿された「神奈川県に關係する帰化植物数種」について興味深く読ませて頂いた.特に「ヒメアメリカアゼナは県内にあるか?」の項についてはかなり衝撃を受けた.県植物誌のゴマノハグサ科を担当し,ヒメアメリカアゼナ *Lindernia anagallidea* の同定にかなり苦心しただけに,ヒメアメリカアゼナには微細な腺毛があるという氏の発見に驚いたからである.本種の帰化を初めて報告した山崎敬(1988 植研 63: 410-411)も,参考にしたいくつかの外国文献にもその特徴は記載されていない.



ヒメアメリカアゼナの莖上の腺毛(有柄腺).
1994.8.29 都留市秋山 北川淑子採集品.スケールは0.01mm.

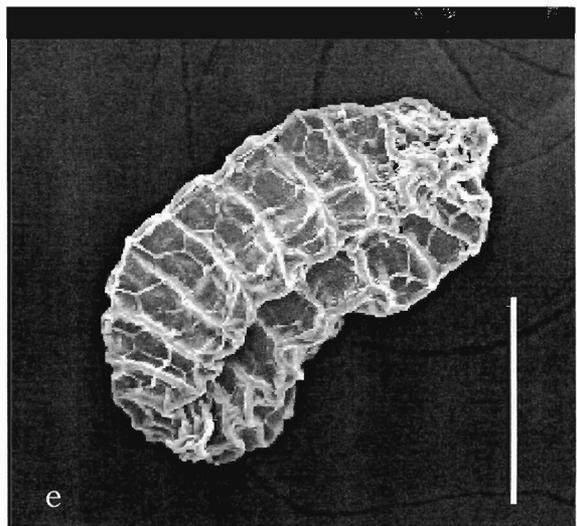
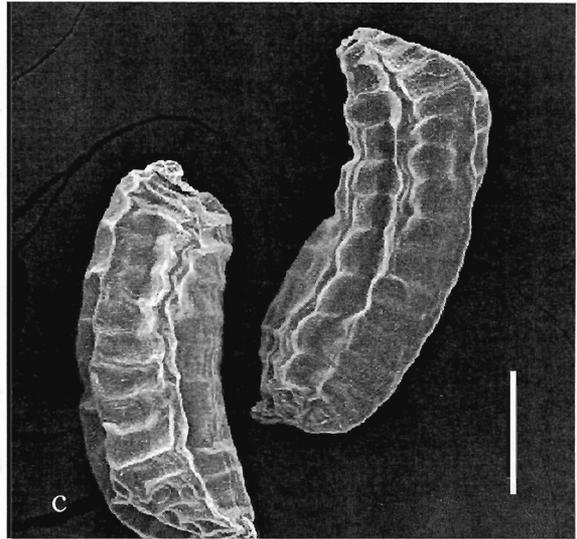
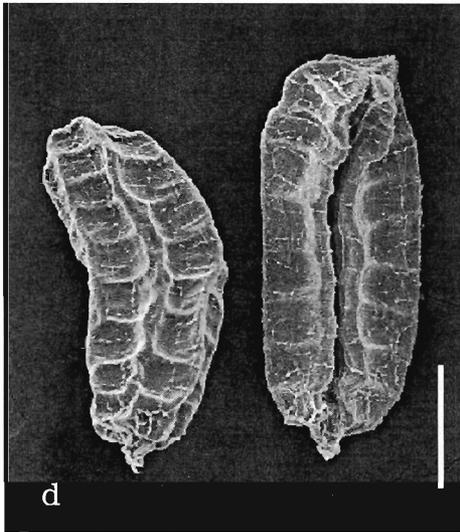
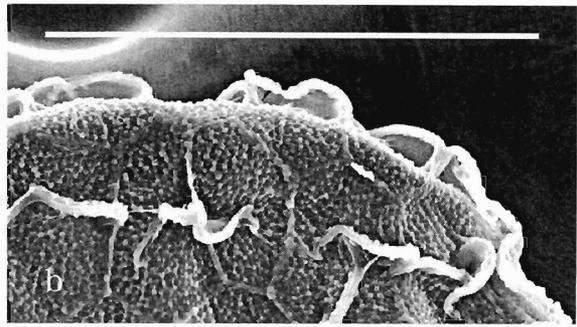
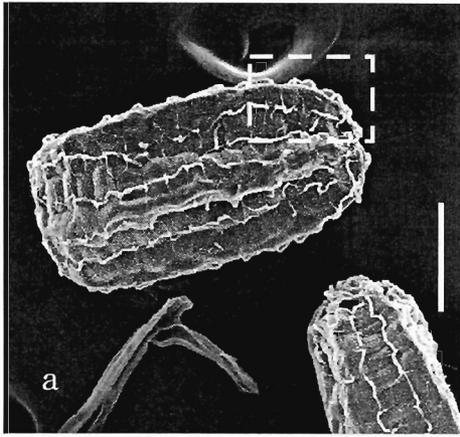


アゼナの種子表面の光学顕微鏡写真.スケールは0.02mm.

しかし,堀内氏が同定したヒメアメリカアゼナ(山梨県都留市秋山 1994.8.29 北川淑子 KPM-NA0123019)には果柄や萼片にも微細な腺毛があることを私も確認したことで,腺毛の存在が極めて有効な識別のkeyになることを納得した.

②私が県植物誌にヒメアメリカアゼナとして報告した2点の標本は誤認であつたらしい.堀内氏はそれを何れもアゼナであつたと述べている.その2点の標本のうち茅ヶ崎市菱沼 1999.8.25 斎木操 HCM84827は改めて種子を調べた結果からアゼナであることを確認し,私の観察が不十分であつたことがはっきりした.アゼナとしての特徴がややわかりにくい種子であつたことが誤認の原因であつたことも判明した.しかし,城山町葉山 1996.7.21 小崎昭則 KPM-NA0110739の標本については種子の再検討の結果からもアゼナの特徴を見出し得なかった.葉縁の鋸歯の有無がわかりにくく,すでに花期を過ぎて多くの果実も開裂しているので残存花もなく雄しべを調べることもできない.他の諸形質からアメリカアゼナ,タケトアゼナを否定し,種子の特徴からアゼナも否定されるので消去法的にヒメアメリカアゼナと同定したが,それは誤認であつて,堀内氏の新知見に基づきヒメアメリカアゼナではないことを認める.しかし,今でもこの問題個体は普通のアゼナではないように思う.

③花の構造や葉の鋸歯が調べにくい標本で,アゼナと他の帰化アゼナ類を識別するkeyとして私はアゼナの種子の表面に見られる特殊構造物の存在を採用した.この特殊構造物は光学顕微鏡で見ると環状の毛のように見えるので(上写真),県植物誌では環状の毛と表現したが,実際は電子顕微鏡によって毛ではないことが後に判明した.アゼナの種子の表面には極めて薄い膜が半円形のひれ状に張り出したものが縦



アゼナ類の種子表面の走査型電子顕微鏡写真。
a: アゼナ, b: aの拡大, c: アメリカアゼナ, d: タ
ケトアゼナ, e: 小崎採集品KPM-NA0110739。
スケールは0.01mm。

方向に並んでおり、その膜の外縁だけが肥厚している(右上写真)。光学顕微鏡では薄い膜の部分は光を透過して見えず、肥厚した外縁だけが糸状に観察されることが判明した。この特殊構造物の存在はアゼナ(a, b)だけに見られ、帰化アゼナ類には観察されない(c, d)。堀内氏がヒメアメリカアゼナと同定した前記標本の種子についてもこの特殊構造物は存在しない。したがって葉や花の状態が悪い標本で、アゼナと帰化アゼナ類と識別するには種子表面の特殊構造物の存在の有無を確かめることが有効であることを再確認し

た。ただ②に述べた小崎標本についての疑問は未解決で、今後の課題としたい。

④ヒメアメリカアゼナについて小崎昭則氏は本誌No.39(1994)神奈川県産の植物補遺(4)で、果柄が長く、葉も小さいという山崎(1988)の報告のほかに花冠も小さいという特徴を挙げ、

はっきり区別できるとし、道志川右岸、相模湖の上流に分布すると報告している。彼の標本を調べてみると上記特例を除き、すべてその種子にアゼナ固有の構造物がある。したがって彼が認識していたヒメアメリカアゼナはアゼナの一種であることは確かである。県植物誌2001のアゼナの図には普通型と、果柄がいちじくしく長い型と並べて描いて両方の型があることを示しておいた。後者が彼の認識していたヒメアメリカアゼナである。この両者は明らかに草姿が異なるので、同一の分類群として扱っていいのかどうか検討する必要があると思われる。これも今後の課題としたい。

種子表面の特殊構造物を正確に見きわめるため電子顕微鏡で見ましようという呼びかけから操作のすべてまで県博の木場さんにやって頂きました。したがって構造物が毛状でないことを確認できたのは木場さんとの共同研究の成果です。平塚市博物館に収納されている問題標本の再確認のためには、浜口さんがあらかじめ標本を準備したり一緒に顕微鏡を覗いたりしてご協力を頂きました。有難うございました。

キンギンナスビモドキ(ナス科ナス属) の正体が判明

(勝山輝男)

神奈川県植物誌2001(p. 12336-1237)ではキンギンナスビモドキの学名を不詳としたが、Nee(1991)により南アメリカ原産でアフリカやアジアに帰化している*Solanum viarum* Dunal, in DC., Prodr. 13(1): 240 (1852)と判明した。花、果実、種子の大きさ、形、色、葉の上面に単純毛、下面に星状毛がある点など、*S. aculeatissimum* Jq. (= *S. khasianum* C.B. Clarke)によく似ている。しかし、*S. aculeatissimum*の茎、葉柄、葉には腺毛がないのに対し、キンギンナスビモドキの茎、葉柄、葉には腺毛があるので、*S. viarum*と判断した。なお、*S. aculeatissimum*の取り扱いが混乱があり、Zhuang Zhiyung (1999, 中国高等植物9: 229)の*S. aculeatissimum*や中国植物誌67(1): 108の*S. khasianum*の記述や図はキンギンナスビモドキ*S. viarum*にあたる。また、日本ではキンギンナスビに*S. aculeatissimum*があてられたことがあるが、Nee(1991)によるとキンギンナスビは*S. capsicoides* All. (= *S. ciliatum* Lam.)となる。

文献

Nee, M., 1991. Synopsis of *Solanum* Section *Acanthophora*. in Hawkes et al ed. Solanaceae III, pp. 257-266. Royal Botanic Garden Kew & Linnean Society of London.

ツキミマンテマ

(高橋秀男)

横浜の植物調査の一環として、1998年5月14日に有志で、三溪園の植物調査を実施した。このときに、三溪園に隣接した八聖殿から下った、本牧市民公園前バス停付近で採集したナデシコ科のマンテマ属*Silene*の一種が宿題になっていた。花もない標本であったので、根を動かさないように、深く掘り取って持ち帰り栽培した。活着はしたが、その年は花を見ることができなかった。翌年5月に、こぼれ種子から発芽し開花したが、花は夜咲きであることも知った。文献や東大研究資料博物館や国立科学博物館へ伺い同定を試みたが、名を確定するまでにはいたらなかった。

時間が経過して、2002年4月7日、近畿植物同好会の植村修二さんのメーリングリストで、ツキミマンテマ(新称予定)*Silene nocturna* L.が紹介されていた。花は夜咲きで、花卉の先がくぼむことで区別できるとし、4月6日に東京都江東区の新木場駅付近で見出したことを記していた。

これは私が本牧市民公園前のバス停付近で採集したものと同一のものであると思われた。会員の山崎泰子さんも、私が気づいた年の1998年5月8日に栄区で採集していた。本種の形態については、平凡社刊『日本の帰化植物』(2003)に詳しく紹介されているので省略し、本会報では、全体図と標本写真、それに開花した花の図を掲載し、私が観察した結果を簡単に記したい。

茎は基部で分枝し、高さは60cmほどに達する。花は夕刻に直径1cmほど、ほぼ総状花序をなし、下方から先端へ向かって、順次一花ずつ咲いてゆく。花は暗くなってから咲き、翌朝にはしぼむので、花の開いた標本を作ることも、写真の撮影も容易でない。花卉は5枚でピンク、2中裂し、雌しべは3本で毛があり、雄しべは10本。つぼみのときは雄しべが萼筒に隠れているが、夜中に雄しべは抽出して花粉を散らし、花

「林ほか(1961):丹沢山塊の植物調査報告」の標本について

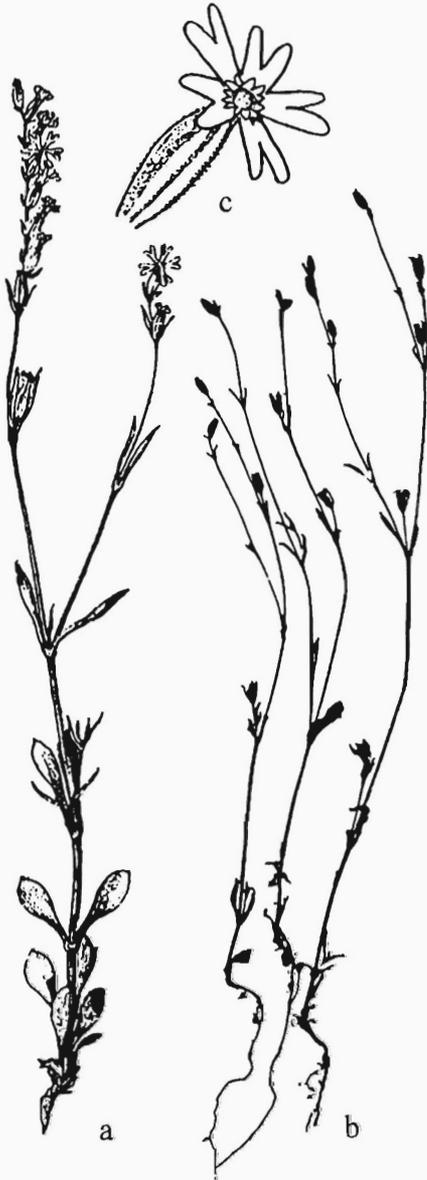
(逢沢峰昭)

旧農林省浅川実験林の林弥栄氏らによって、昭和28年(1953)から昭和35年(1960)にかけて行われた丹沢山塊の植物調査は、林ほか(1961)にまとめられている。この報告は、丹沢山塊に関する植物研究史のなかで最も注目される植物誌であり、学術的にも価値の高いものとされる。しかし、過去の文献を引用した部分も少なくなく、貴重な文献であると同時に詳細な検討を要する文献であるとされる(勝山ほか1997)。林ほか(1961)に記載のある草本類の一部は国立科学博物館(TNS)に所蔵されており、神奈川県植物誌調査会編(1988, 2001)で引用標本として利用されている。しかし、樹木標本に関しては、これまでその所在が明らかでなく、標本調査がなされていない。

筆者は2002年に、森林総合研究所多摩森林科学園(旧浅川実験林)標本室(TFA)に、林ほか(1961)の調査の際に採集された樹木標本が多数所蔵されているのを見出し、これらの標本調査を行った。加えて、同標本室には100点ほどの草本類の標本も残されており、これらの標本に関しても併せて調査した。標本調査は主に、神奈川県植物誌編纂のための調査において、林ほか(1961)に記載がありながらこれまで確認されていない種の標本、稀少種の標本、および誤認標本の確認に重点をおいて行った。本報では、これらの標本調査の結果を報告する。なお、同標本室には、林ほか(1961)の調査の際に採集された植物標本が、丹沢山塊で普通に見られる植物を含めて、500点ほど所蔵されていると予想される。

標本産地に関して

林ほか(1961)の調査の際に採集された標本は、台紙に貼られており、ラベルには産地および採集日が記載されている。樹木標本の一部はラベルに種名の記載はないが、それぞれの種ごとに整理されている。また、草本類の標本の大部分はラベルに種名の記載がなく、属レベルで整理されている。ラベルには、「丹沢山コモツリ山」、「丹沢山水ノ木～明神峠」、「丹沢山大室山」、「丹沢山 蛭ヶ岳及檜洞」のように、



a: Bonnier, G., & Doum, R. 1990. *La Grande Flore en Couleurs de Gaston Bonnier*. xxv+467 pls. Edition Berlin, Paris.

b: 1998. 5. 14 横浜市中区本牧市民公園前のバス停付近で採集したもの

c: 2003年5月2日21時頃開花したもの

弁も収縮してしまう。単一で直立したものは、風で倒れやすいが、乾燥には強く、種子もよく登熟し、繁殖力は強い。マンテマ属のなかでは、日中の観賞ができない地味な植物である。

「丹沢山——」と記載された標本や単に「丹沢山」と記載された標本が多くを占めている。このうち「丹沢山——」は丹沢山塊を指していると考えられるが、「丹沢山」とだけ記載された標本に関しては、丹沢山塊を指しているのか、あるいは丹沢山(1567m)を指しているのか判断の難しい標本も少なくない。そこで、林ほか(1961)の調査ルートを整理した。

標本ラベルに記載された採集日と採集場所は、特定の日と場所に限定されていた。これに加えて、特に分布地の限られている種の標本が確認された場合、この標本のラベルに記載された採集日および採集場所と、林ほか(1961)の記載産地を比較検討することで、林ほか(1961)の調査実施日および調査ルートが推定できる。例えば、今回の標本調査で「アイズシモツケ:丹沢山 1954.Jul.」の標本が確認されたが、林ほか(1961)にはアイズシモツケの産地として、ただ一箇所「幽神-塔ヶ岳」とあることから、1954年7月に幽神から塔ノ岳を調査したと判断できる。

以上の方法によって特定できた、林ほか(1961)の調査実施日、調査ルート、標本採集者は以下の通りである。

- 1953年5月:大山 林弥栄
1953年6月 21日:大山 林弥栄
1953年8月:札掛-塔ノ岳-丹沢山(一本間の頭または蛭ヶ岳?) 林弥栄
1953年9月3日:塔ノ岳-丹沢山 小山芳太郎・小島俊郎
1954年7月 13-14日:(ヤビツ峠-札掛-)塔ノ岳-丹沢山(一本間の頭?-丹沢山)-塔ノ岳-ユーシン 林弥栄
1954年7月 17-18日:大室山-犬越路 林弥栄
1954年8月 13日:ユーシン-塔ノ岳-丹沢山(ユーシン) 林弥栄
1954年10月:世附国有林 林弥栄
1955年8月 16日:(ヤビツ峠-)塔ノ岳-丹沢山 林弥栄
1955年8月:菰釣山 林弥栄
1956年10月 16-19日:ユーシン附近(17日:ユーシン-雨山峠/19日:玄倉) 林弥栄・小林義雄
1956年7月 15日:津久井 小林義雄
1956年7月 16日:(長者舎?-)大室山 林弥栄
1956年7月 17日:(長者舎?-)犬越路 林弥栄

- /(長者舎?-)風巻附近 小林義雄
1956年7月 18日:(長者舎?-)大室山(犬越路-長者舎?) 林弥栄
1956年7月 19日:(長者舎-)風巻-原小屋 林弥栄・小林義雄
1956年7月 20日:蛭ヶ岳-檜洞丸-犬越路 林弥栄・小林義雄
1956年7月 25日:世附水ノ木沢 林弥栄・小林義雄
1957年8月 15日:富士見-(塔ノ岳)-丹沢山 林弥栄・小林義雄
1957年8月 16日:丹沢山(一本間の頭または蛭ヶ岳?) 林弥栄
1957年8月 17日:丹沢山-塔ノ岳-札掛 林弥栄・小林義雄
1957年8月 18日:札掛 小林義雄
1958年7月 14日:大山 林弥栄
1959年7月 24日:大又-水ノ木沢-明神峠 林弥栄・小林義雄
1959年7月 25日:水ノ木沢-大又 林弥栄・小林義雄

これらの調査実施日や調査ルートを考慮すると、ラベルに単に「丹沢山」と記載された標本の産地は、林ほか(1961)の産地記載を参考にすると、丹沢山(1567m)のほかに、ヤビツ峠-塔ヶ岳-丹沢山、ヤビツ峠-札掛-塔ヶ岳、塔ヶ岳-ユーシンが含まれていると考えられるほか、丹沢山-蛭ヶ岳、丹沢山-一本間ノ頭も含まれていると予想される。したがって、具体的な産地に関しては、林ほか(1961)の記載をもとにして、どの産地の標本に該当するかを適宜判断した。

本報の凡例

本報で挙げた種名のうち、標本ラベルに種名の記載がなかった場合や、種名に誤認があった場合は筆者が同定を行った。筆者の同定によるものは種名に*を付した。また、頻繁に出てくる引用文献は次のように省略した。神植1988:神奈川県植物誌調査会編1988, 神RED1995:神奈川県レッドデータ生物調査団1995, 神植2001:神奈川県植物誌調査会編2001。

<樹木標本>

- 1) ヒメコマツ:神奈川県丹沢風巻附近1956.7.18 Y.K.(小林義雄)

林ほか(1961)には、分類地理学上注目すべき樹種として挙げられ、丹沢山塊では風巻から原小屋の間、丹沢山北面、世附にわずかに天然分



2. シラビソ(液浸標本). 数字は本文に対応.

布しているとある. そして, 風巻のヒメコマツ *Pinus parviflora* の大木および球果の写真がある. 確認された標本は, この風巻の標本に該当するものと考えられる. その後の調査では, 大山で確認されただけである(神植1988, 2001). しかし, 筆者の調査の結果, 蛭ヶ岳北面地蔵尾根上で大径木12個体程度と, 袖平山から風巻の間で1個体を確認した. 丹沢山塊に分布するヒメコマツの個体群は, それ自体が量的に少ないばかりか, 房総半島に分布する同種個体群の衰退問題を考える上で, 学術的に貴重なものと考えられることから, その分布および更新状況に関して, 後日別途報告する予定である.

2) シラビソ: 神奈川県塔ヶ岳東方1400m天然林10年生 1955.8.16 林弥栄

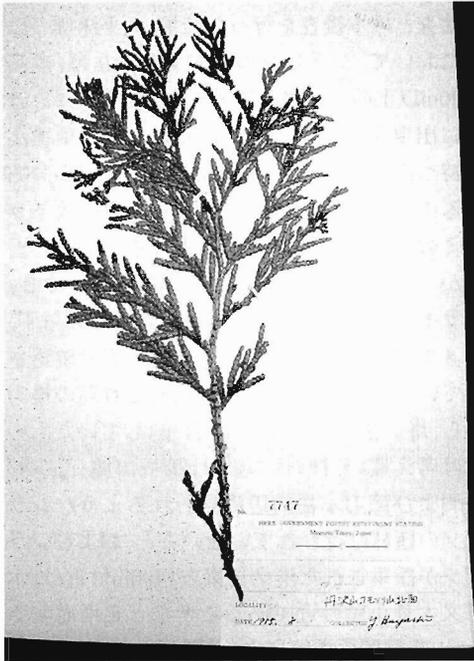
塔ノ岳東方のシラビソは, 林(1956, 1960)および林ほか(1961)に記載されており, 林ほか(1961)には, 塔ノ岳一角のダケカンバ, カラマツ, ノリウツギなどの低木林内に高さ50~60cmのものが数本生じていたと記載され, その写真が撮影されている. 確認された標本は, これらの報告にあるシラビソの標本に該当するものと考えられる. しかし, シラビソは, その後の調査でも確認されておらず, 神RED(1995)では絶滅種とされた.

筆者は修士論文研究の一環として, 詳細な実地踏査と標本調査を行った結果, 太平洋側の山岳において, シラビソの分布する山岳は, 標高1800m以上の山頂標高を持つ山岳に限られ, 確実に出現するのは標高1900m以上の山頂標高を持つ山岳であること, およびシラビソが分布する山岳には, コメツガ, トウヒあるいはイラモミのいずれかの樹種が必ず分布することがわかった. しかし, 丹沢山系においてはトウヒ, イラモミの分布はこれまで確認されておらず, コメツガも行者岳および鬼ヶ岩北面で確認されているだけである(神植2001). これらの検討から, 塔ノ岳のシラビソは「自生」していたものとは考え難い. 神奈川県では御坂山塊・三ツ峠山および節刀ヶ岳周辺に見られるようなシラビソの植林は行われていないこと, およびシラビソが採集された塔ノ岳東方1400m付近は, 木ノ又大日小屋付近であることなどを考慮すると, 山小屋関係者等により植栽されたものと推察される[逢沢・梶(投稿中)を引用].

3) トウヒ(*ハリモミの誤認): 神奈川県蛭ヶ岳西方 林弥栄

林(1952)は, 塔ノ岳, 丹沢山, 蛭ヶ岳にトウヒを記載している. 確認された標本ラベルには採集日の記載はないが, ほかの標本と比較検討すると, 林(1952)の記載の基となった蛭ヶ岳の「トウヒ」の標本と考えられる. しかし, ここで注目すべきことは林(1952)以後の林(1960)および林ほか(1961)には, 塔ノ岳, 丹沢山, および蛭ヶ岳のトウヒが記載されていないことである. このことは, 林(1952)以後にこの同定上の誤りに気づき, 林(1960)および林ほか(1961)では削除したのと考えられる. このことは同時に林(1952)の記載にある塔ノ岳, 丹沢山の「トウヒ」, および丹沢山, 蛭ヶ岳のイラモミの産地も, 林(1960)および林ほか(1961)に記載がないことから, ハリモミの誤認であったことを示唆している. 従って, 林(1952)に記載されている, 「トウヒ」および「イラモミ」は, 同山系にみられるハリモミを誤認したものであったと結論づけられる.

なお, 神奈川県博物館調査会編(1933)にはトウヒの産地として塔ノ岳, 蛭ヶ岳が, イラモミの産地として丹沢山, 蛭ヶ岳が記載されている. また, 久内(1928)は蛭ヶ岳山頂にイラモミを記載している. 林(1952)の引用文献リストにこれら



4. クロベ

の報告が含まれていることから、林(1952)のトウヒおよびイラモミの記載は、これら報告を判断材料に用いたか、あるいはそのまま引用したものと考えられる。また、神奈川県博物館協会編(1958)の記載に関しては、その引用文献リストには林(1952)の記載がないことから、同書凡例に記載されている通り神奈川県博物調査會編(1933)をそのまま引用したものと考えられる。

林(1960)はイラモミの産地として大室山民有林を記載し、林ほか(1961)には、大室山、世附とある。この分布地に関しては、林ほか(1961)の調査の際に、新たに確認したものと考えられるが、同標本室(TFA)には、大室山産のイラモミの標本はなかった。また、これまでの調査でも確認されていない(神植1988, 2001)。林ほか(1961)の森林所有図によると、民有林は大室山北面に限られることから、筆者は同山の山梨県道志側を数度踏査したが確認できなかった。しかし、筆者の实地踏査により御正体山1650m付近においてイラモミを確認したことから、丹沢山塊に分布する可能性も否定できない[逢沢・梶(投稿中)を引用]。

4) クロベ: 丹沢山コモツリ山北面 1955.8 林弥栄

林(1960)には、クロベの産地として神奈川県下の世附国有林、山梨県下の大室山、加入道山、菰釣山の記載がある。確認された標本は林



6. ミネヤナギ

(1960)の菰釣山の標本に該当するとともに、林ほか(1961)の森林所有図によると、菰釣山は世附国有林に含まれていることから、同報告にあるクロベの産地のうち、世附の標本に該当するものと考えられる。なお、筆者はこれまで大室山および加入道山の山梨県側を踏査したが確認できなかった。

5) シライヤナギ(*キヌゲシバヤナギの誤認): 丹沢山1954.7.13 林弥栄

この標本は、キヌゲシバヤナギ *Salix japonica* form. *fauriei* の誤認標本と考えられる。ラベルの種名には訂正線が引かれているが、種名の同定はなされていないことから、林ほか(1961)以後の整理の際に訂正されたと考えられる。シライヤナギは、林ほか(1961)では分類地理上注目すべき樹種として挙げられ、塔ヶ岳から丹沢山の間にわずかに自生があると記載されている。確認された標本は、この標本に該当するものと考えられる。

6) ミネヤナギ: 丹沢山1955.8 林弥栄, 丹沢山1955.8 林弥栄

林ほか(1961)には塔ヶ岳-丹沢山-蛭ヶ岳とあり、この標本に該当するものと考えられる。採集日は、調査実施日を考慮すると、8月16日と考えられる。なお、神植(1988, 2001)には、富士山に近い西丹沢三国峠周辺で確認されただけである。



8. ヤマナラシ

7) ヤマナラシ: 丹沢山 風巻一原小屋 1956.7.19 林弥栄

林ほか(1961)には塔ノ岳一幽神, 風巻一原小屋, 世附とあり, このうち風巻一原小屋の標本に該当するものと考えられる。

8) ヤマナラシ: 丹沢山 1954.8.13 林弥栄, 丹沢山 1954.8.13 林弥栄, 丹沢山~風巻一原小屋 (筆者注: 丹沢山 風巻一原小屋の記載ミスと思われる) 1956.7.19 林弥栄・小林義雄

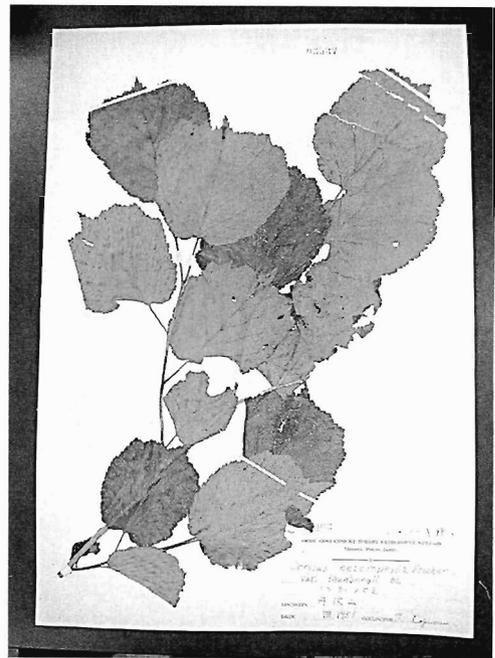
林ほか(1961)には檜洞丸, 姫次, 丹沢山(竜ヶ馬場)とあり, 分類地理学上注目すべき種として挙げられており, 姫次で撮影された写真がある。確認された標本は, 丹沢山(竜ヶ馬場)および姫次の標本に該当するものと考えられる。神植(1988, 2001)の調査でも確認されておらず, 神RDB(1995)では絶滅種とされた。

林ほか(1961)に記載されている同じカバノキ科の樹種のうち, ダケカンバは, 丹沢山, 丹沢山日高, 世附(水ノ木沢周辺)の標本があった。しかし, ネコシデ, ミヤマハンノキの標本は確認できなかった。

9) ハシバミ: 丹沢山 1955.8 小島俊郎

林ほか(1961)には記載が見られないが, 神植(2001)に県内では山地~丘陵地に稀に見られるとある。

10) マルバオヒョウ *Ulmus laciniata* form. *holophylla*



9. ハシバミ

(Nakai) Hayashi: 丹沢山 犬越路 1954.7 林弥栄

林ほか(1961)には世附(稀)とあり, 犬越路の記載はない。ただし, 母種オヒョウと形態的に顕著な違いは見られなかった。なお, 採集日は, 調査実施日を考慮すると7月18日と考えられる。

11) ケヤマグワ *Morus bombycis* var. *pubescens* Hotta : 丹沢 ユーシン附近 1956.10.16 林弥栄, 丹沢山 玄倉 1956.10.19 小林義雄

林ほか(1961)には幽神(稀)とあり, この標本に該当するものと考えられる。

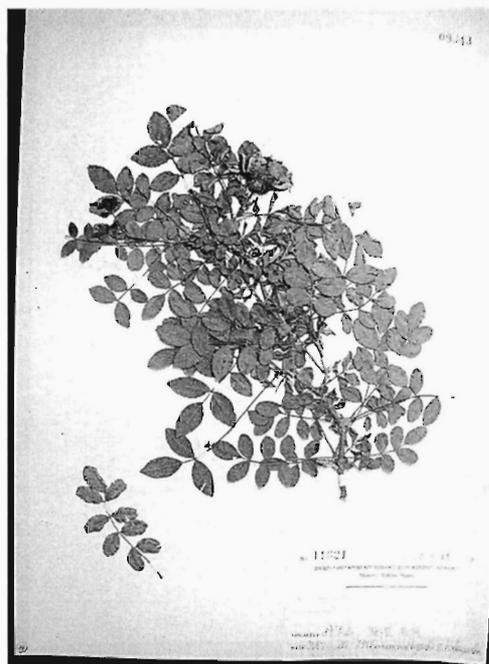
12) ヤナギイチゴ: 神奈川県足柄上郡山北町 1929 牧野富太郎 (Det. K.Hiyama)

13) ウラジロフサザクラ *Euptelea polyandra* form. *hypoleuca* Mizushima: 丹沢山 犬越路 1956.7.17 林弥栄

林ほか(1961)に, 犬越路, 幽神(稀)とあり, このうち犬越路の標本に該当するものと考えられる。

14) *サンショウバラ: 丹沢山 蛭ヶ岳及檜洞 1956.7.20 林弥栄・小林義雄

この標本はラベルに種名が記載されていないが, サンショウバラのカバー内であった。林ほか(1961)には, 分類地理学上注目すべき樹種として挙げられており, 塔ヶ岳や丹沢山にもまれに生ずるとの記載がある。ただし, 採集日の調査ルートは蛭ヶ岳一檜洞丸一犬越路である



14. サンショウバラ

ことから、林ほか(1961)の記載産地と若干異なっている。神植(2001)では、丹沢山塊では不老山から三国山の尾根で確認されただけである。

15) アイズシモツギ: 丹沢山 1954.7 林弥栄, 神奈川県世附国有林 1954.10 林弥栄

林ほか(1961)に、塔ヶ岳～幽神(稀)とあり、丹沢山とラベルに記載された標本は、この標本に該当するものと考えられる。採集日は、調査実施日を考慮すると7月14日と考えられる。また、世附の標本に関しては林ほか(1961)には記載がない。

16) コガクウツギ(*ガクウツギの誤認): 神奈川県世附国有林 1954.10 林弥栄

この標本は、葉身の先が尾状に鋭尖形をなしており、縁には浅い鋸歯があることからガクウツギであると考えられる。林ほか(1961)はコガクウツギの産地として、大山、犬越路～長者舎、世附を挙げており、確認された標本はこのうち世附の標本に該当するものと考えられる。

17) オオヤママルバウツギ: 相模大山 1958.7.14 林弥栄

18) アオヒメウツギ *Deutzia gracilis* var. *nagurai* (Makino) Sugimoto: 神奈川県中郡四十八瀬 1945.5.5 小林義雄, 神奈川県丹沢山宮ヶ瀬村 1957.5.13 小林義雄

林ほか(1961)に、津久井、世附とある。このう

ち津久井の標本に該当するものと考えられる。
19) *ウメウツギ: 丹沢山 蛭ヶ岳及檜洞 1956.7.20 林弥栄・小林義雄

林ほか(1961)には、分類地理学上注目すべき樹種として挙げられており、丹沢山北部と小笄の2箇所で採集したとある。確認された標本は、採集日の調査ルートから、小笄の標本に該当するものと考えられる。

20) ヤシャビシャク: 丹沢山 檜洞及蛭ヶ岳 1956.7.20 林弥栄・小林義雄

確認された標本は、採集日の調査ルートから、林ほか(1961)の記載産地のうち蛭ヶ岳-檜洞丸の標本に該当するものと考えられる。

21) ユクノキ: 神奈川県大山 1953.5 林弥栄

林ほか(1961)および神植(1988, 2001)には記載は見られない。本標本は、①小葉の基部の小托葉がないこと、②小葉の側脈数がフジキのそれに比べて多いこと、③葉裏が粉白色を帯びていることから、ユクノキと考えられる。また、ユクノキとフジキの標本をそれぞれ20点ほど比較したが、フジキのさく葉標本は葉が緑色であるのに対し、ユクノキのそれはやや暗緑色に変色しているように見えた。

22) クロカンバ: 丹沢山 風巻～原小屋 1956.7.19 林弥栄・小林義雄, 丹沢山 蛭ヶ岳及檜洞 1956.



21. ユクノキ

7.20 林弥栄・小林義雄

林ほか(1961)の記載産地のうち、原小屋、蛭ヶ岳一檜洞で採集された標本と考えられる。

23) ヨコグラノキ 丹沢山 1953.9.3, 丹沢山 1957.8.15 林弥栄

林ほか(1961)には、分類地理学上注目すべき樹種として挙げられており、その産地として札掛、塔ヶ岳、および丹沢山とある。札掛と記載された標本も別にあることから、塔ノ岳もしくは丹沢山の標本に該当するものと考えられる。

24) ヨコグラブドウ(*サンカクズルの標本): 丹沢山 1954.7.13 林弥栄

この標本の種名は「ヨコグラブドウ?」と記載されていたが、サンカクズルであった。林ほか(1961)には、ヨコグラブドウの産地として世附をあげている。確認された標本は、採集日の調査ルートから世附の標本とは異なるものと考えられる。世附の標本は確認できなかった。

25) バイカツツジ: 丹沢山 1954.7 林弥栄

調査実施日および調査ルートの検討から、7月13-14日に、林ほか(1961)の記載産地のうち、札掛一塔ヶ岳一丹沢山あるいは、塔ヶ岳一幽神で採集された標本に該当するものと考えられる。

26) ヒカゲツツジ: 丹沢ユーシン附近 1956.10.16-19 林弥栄

林ほか(1961)には、分類地理学上注目すべき樹種として挙げられており、幽神の谷間に2-3株生じているのを見たのみとある。確認された標本は、この標本に該当するものと考えられる。これまで神植(2001)では、玄倉川の谷間で採集されている。なお、アブラツツジの標本は確認できなかった。

27) サツキ: 津久井郡 津久井溪谷 1958.7.3 小林義雄

28) キヨスミミツバツツジ(*ミツバツツジの誤認): 丹沢山 1954.7.13 林弥栄

確認された標本は、花がないことから葉の形質により同定したが、葉身下部の縁が裏側に巻きこんでいること、キヨスミミツバツツジに特徴的な葉裏主脈下部の両側に縮れた軟毛がないことから、ミツバツツジの誤認であると考えられる。確認された標本は、林ほか(1961)の記載産地のうち、ヤビツ峠~札掛の標本に該当するものと予想される。

29) カクミノスノキ(ウスノキ)(*スノキの標本): 丹沢山 1954.8 林弥栄

この標本はラベルに種名の記載がないが、カクミノスノキ(ウスノキ)のカバー内にあった。この標本はスノキであった。調査実施日および調査ルートから、採集日は8月13日で、林ほか(1961)の記載産地のうち、塔ノ岳~丹沢山~幽神で採集された標本に該当するものと考えられる。なお同属のクロスゴの標本は確認できなかった。

30) ミヤマアオダモ: 丹沢山大室山 1956.7.18 林弥栄

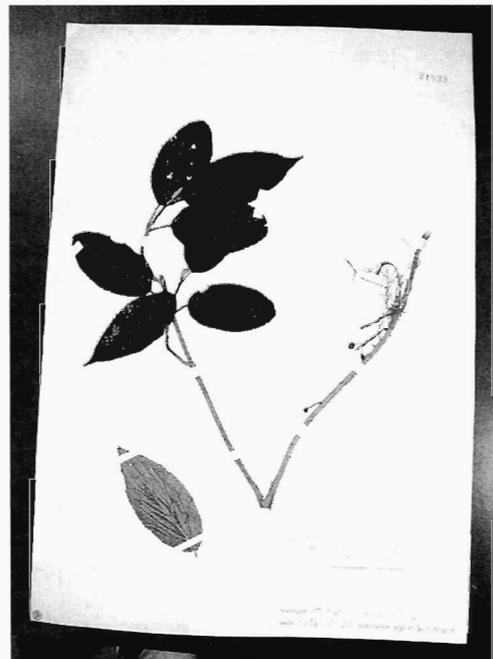
林ほか(1961)の記載産地のうち、大室山の標本に該当するものと考えられる。神植(2001)では、蛭ヶ岳、丹沢山の標本2点が確認されているだけである。

31) オオツクバネウツギ(メツクバネウツギ): 神奈川県世附国有林 1954.10 林弥栄

林ほか(1961)には世附とあり、この標本に該当するものと考えられる。これまで世附川流域からの報告はなかった(神植2001)。

32) コツクバネウツギ(*ツクバネウツギの標本): 丹沢山 1954.7 林弥栄, 丹沢大室山 1956.7.18 林弥栄

この標本はラベルに種名の記載がないが、コツクバネウツギのカバー内にあった。確認された標本はツクバネウツギであった。林ほか(1961)は、コツクバネウツギの産地として幽神



33. ミヤマシグレ

(稀)をあげている。丹沢山とラベルに記載された標本は、調査実施日および調査ルートを考慮すると、7月14日に幽神で採集された標本に該当するものと予想される。ただし、大室山の標本に関しては、林ほか(1961)に産地の記載はない。

33)ミヤマシグレ:丹沢大室山 1956.7.18 林弥栄、丹沢山 蛭ヶ岳及檜洞 1956.7.20 林弥栄・小林義雄

林ほか(1961)に、丹沢山、大室山、犬越路-檜洞丸(小筍)とある。調査実施日および調査ルートを考慮すると、それぞれ大室山および小筍の標本に該当するものと考えられる。神植(2001)では、箱根金時山で採集されているが、丹沢山塊ではこれまで標本が確認されていなかった。

<草本類>

同標本室の草本類の標本中には、林ほか(1961)の調査者の一人、小林義雄氏が1940年代後半に神奈川県内で採集した標本が残っている。これらの標本は、林ほか(1961)の調査開始以前に採集された標本であるが、その産地が、林ほか(1961)に記載された産地と一致する標本も少なくないことから、これらの標本も調査対象とした。

34)スギラン:丹沢山 1954.7 林弥栄

林ほか(1961)には、分類地理学上特筆すべき種類として挙げられている。調査実施日を考慮すると、採集日は7月13-14日に、塔ノ岳あるいはユーシンで採集されたものと考えられる。本種は、勝山ほか(1997)でも分布・分類上特色ある種として挙げられている。

35)ナンタイシダ:丹沢山 蛭ヶ岳及檜洞 1956.7.20 林弥栄・小林義雄

林ほか(1961)に檜洞丸-犬越路-大室山(稀)とあり、この標本に該当するものと考えられる。本種は丹沢山塊ではやや稀に産する(神植2001)。

36)ハコネシケチシダ:丹沢山 蛭ヶ岳及檜洞 1956.7.20 林弥栄・小林義雄

林ほか(1961)の蛭ヶ岳-檜洞丸-犬越路の標本に該当するものと考えられる。

37)イッポンワラビ:丹沢山 蛭ヶ岳及檜洞 1956.7.20 林弥栄・小林義雄

林ほか(1961)に蛭ヶ岳-檜洞丸(稀)とあり、この標本に該当するものと考えられる。ただ

し、近年の調査では確認されず現状不明とされている(神植編2001)。神RDB(1995)では絶滅種とされた。

38)コガネシダ:丹沢山 1953.8 林弥栄

林ほか(1961)は、丹沢産の本種をジョウシュウコガネシダ *Woodsia macrochlaena* var. *glabrata* とし、分類地理学上注目すべき種類として挙げている。採集日の調査ルートから、林ほか(1961)の記載産地のうち叢毛-ヤビツ峠の標本に該当するものと考えられる。神植(1988,2001)では、本種をジョウシュウコガネシダと区別していない。

39)メダケ:丹沢山 玄倉 1956.10.19 林弥栄

林ほか(1961)に玄倉とあり、この標本に該当するものと考えられる。

40)ハコネダケ:神奈川県世附国有林 1954.10 林弥栄

林ほか(1961)に世附(稀)とあり、この標本に該当するものと考えられる。ハコネダケ *Pleioblastus chino* var. *vaginatus* (Hackel) S. Suzuki は、アズマネザサの変種で特に葉が小さい型であり、箱根山を中心とした神奈川県および静岡県に多いとされる(鈴木 1978)。神植(2001)では、品種form. *vaginatus* Makino & Okamuraとして扱われているが、丹沢山塊中に分布点はない。

41)ハコネメダケ:神奈川県世附国有林 1954.10 林弥栄

林ほか(1961)に世附(稀)とあり、この標本に該当するものと考えられる。ハコネメダケ(ハコネシノ) *Sasaella sawadai* は、アズマザサによく似ているが、稈は1節から3本の枝が出ることで容易に区別できるとされる(鈴木 1978)。神植(2001)では、アズマザサ *Sasaella ramose* と区別していない。

42)シオツザサ:神奈川県世附国有林 1954.10 林弥栄

林ほか(1961)に世附(稀)とあり、この標本に該当するものと考えられる。鈴木(1978)によると、本種はタキザワザサ *Neosasamorpha takizawana* の変種 *チトセナンブスズ* var. *lasioclada* (Makino & Nakai) S. Suzuki と同じものとされ、葉鞘に細毛が密生し、しばしば長毛が混生することで区別される。

43) *ウチヨウラン:丹沢山 1955.8 小島俊郎、丹沢山 蛭ヶ岳及び檜洞 1956.7.20 林弥栄・小

林義雄

前者の採集場所に関しては特定できないが、後者の標本は、林ほか(1961)の記載産地のうち、蛭ヶ岳-檜洞丸-犬越路の標本に該当するものと考えられる。

44) *オノエラン: 神奈川県丹沢山 1953.8 林弥栄, 丹沢山 蛭ヶ岳及檜洞 1956.7.20 林弥栄・小林義雄

これらの標本は、林ほか(1961)の記載産地のうち、塔ヶ岳-丹沢山-蛭ヶ岳, および蛭ヶ岳-檜洞丸-犬越路の標本に該当するものと考えられる。

45) *トンプソウ: 丹沢山 風巻~原小屋 1956.7.19 林弥栄・小林義雄, 丹沢山 1957.8.17 林弥栄

林ほか(1961)の記載産地のうち、姫路-原小屋, および札掛-塔ノ岳-丹沢山の標本に該当するものと考えられる。

46) *ジンバイソウ: 丹沢山 蛭ヶ岳及檜洞 1956.7.20 林弥栄・小林義雄

林ほか(1961)の記載産地のうち、蛭ヶ岳-檜洞丸-犬越路の標本に該当するものと考えられる。

47) キソチドリ: 神奈川県大山 1951 林弥栄

林ほか(1961)の記載産地のうち、大山の標本に該当するものと考えられる。神植(1988)とそ

の後の調査では見つからず、神RDB(1995)では絶滅種とされた。

48) ナガバノキソチドリ: 丹沢山 1956.8.16 林弥栄, 丹沢山 1956.8.17 林弥栄

林ほか(1961)の塔ノ岳-丹沢山, あるいは丹沢山(一本間の頭または蛭ヶ岳)の標本に該当するものと考えられる。

49) *ツレサギソウ属: 神奈川県丹沢山 1953.8 林弥栄

オオヤマサギソウあるいはヤマサギソウと思われる。ヤマサギソウは勝山ほか(1997)では、消息不明種とされていることから、同定の必要のある標本である。

50) *ハコネラン: 丹沢山 1955.8 小島俊郎

林ほか(1961)の記載産地のうち、塔ヶ岳-丹沢山の標本に該当するものと予想される。

51) ビランジ: 神奈川県中郡西秦野村 丹沢山塊塔ヶ岳(水無川) 1947.8.16 小林義雄, 神奈川県中郡西秦野村 水無川源流 1947.8.16 小林義雄

52) レンゲショウマ: 神奈川県中郡西秦野村 丹沢山塊塔ヶ岳 1947.8.16 小林義雄

林ほか(1961)の塔ノ岳の標本に該当するものと思われる。

53) オキナグサ: 神奈川県中郡四十八瀬 1945.5.5 小林義雄

54) チダケサシ: 神奈川県中郡西秦野村 丹沢山塊塔ヶ岳(水無川) 1947.8.16 小林義雄

55) ヒトツバショウマ: 神奈川県中郡西秦野村 丹沢山塊塔ヶ岳(水無川) 1947.8.16 小林義雄, 神奈川県中郡 丹沢四十八瀬 1945.5.5 小林義雄

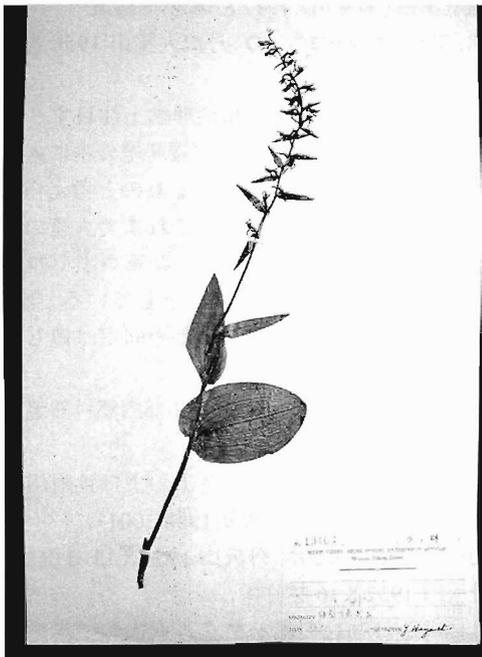
56) フジオトギリ: 神奈川県中郡西秦野村 丹沢山塊塔ヶ岳(水無川) 1947.8.16 小林義雄

林ほか(1961)の塔ヶ岳の標本に該当するものと考えられる。ただし、葉型からクロテンコオトギリの可能性が高い。なお、同じオトギリソウ科で丹沢山塊ではないが、「ミズオトギリ: 神奈川県川崎市登戸 1943.10.10 小林義雄」の標本があった。

57) アマニューウ: 丹沢山大室山 1956.7.18 林弥栄

林ほか(1961)には、分類地理学上注目すべき種類として挙げられ、大室山にのみ産するとある。確認された標本は、この標本に該当するものと考えられる。

58) *ノダケモドキ: 丹沢山 ユーシン附近 1956.10.16-19 林弥栄



47. キソチドリ

やや稀に見られる(神植2001).

71) *キヌタソウ:丹沢山大室山 1956.7.18 林弥栄, 丹沢山 風巻~原小屋 1956.7.19 林弥栄・小林義雄, 相模大山 1958.7.14 林弥栄

林ほか(1961)の記載産地のうち,それぞれ犬越路一大室山および大山の標本に該当し,風巻~原小屋の標本は「各地」に含まれるものと考えられる.

72) *オオキヌタソウ:丹沢山 1954.7 林弥栄

林ほか(1961)の記載産地のうち,丹沢山の標本に該当するものと考えられる.採集日は,調査実施日を考慮すると,7月13-14日と考えられる.

73) ヤハズハハコ:神奈川県中郡西秦野村 丹沢山塊塔ヶ岳(水無川) 1947.8.16 小林義雄

74) カセンソウ:神奈川県中郡西秦野村 丹沢山塊塔ヶ岳 1947.8.16 小林義雄

75) *カシワバハグマ:神奈川県世附国有林 1954.10 林弥栄

林ほか(1961)の記載産地のうち,世附の標本に該当するものと考えられる.神植(1988, 2001)では西丹沢および世附の報告はない.

76) コウリンカ:神奈川県(中郡西秦野村) 秦野市 丹沢山塊大倉尾根 1949.8.16 小林義雄

77) タムラソウ:神奈川県津久井郡鳥屋村 1943.9.19 小林義雄

本報告では,林ほか(1961)の調査の際に採集された植物標本のうち,これまでの神奈川県植物誌編纂のための調査において産地の確認されていない種の標本,稀少種の標本,および誤認標本に関して報告を行った.前述のように,標本ラベルに種名の記載のないものも多いことから,筆者の同定によったものも少なくない.特に筆者の不慣れである草本類の同定に関しては,標本の比較および文献の記載を基にして尽力したが,確認の必要性の高い標本および疑問のある標本に関しては,諸先輩方の同定をお願い致したい.その際,筆者のもとに本報告で挙げた各種の標本写真があるので御活用頂ければ幸いである.なお,筆者は,これまで針葉樹の分布を再検証するために林弥栄氏の標本を探してきたが,同標本室以外では一切確認できなかったことから,林ほか(1961)の調査の際に採集された樹木標本

に関しては,同標本室にあるものがすべてであると思われる.

本報告をまとめるにあたり,度重なる標本閲覧の許可と便宜と図っていただいた,森林総合研究所多摩森林科学園勝木俊雄氏,並びに標本の同定および分布に関する知見をご教示いただいた,神奈川県立生命の星・地球博物館勝山輝男氏に厚く御礼申し上げる.また,数多くの植物を採集して標本として残された,故林弥栄氏をはじめとする旧浅川実験林の諸氏に心より敬意を表す.

引用文献

- 林 弥栄, 1951. 日本産重要樹種の天然分布1. 林試研報48:1-240.
- 林 弥栄, 1952. 日本産重要樹種の天然分布2. 林試研報55:1-251.
- 林 弥栄, 1956. シラベ神奈川県丹沢山集に産す. 植物研究雑誌31(1):21
- 林 弥栄, 1960. 日本産針葉樹の分類と分布. 194pp. 農林出版. 東京.
- 林 弥栄・小林義雄・小山芳太郎・大河原利江, 1961. 丹沢山塊の植物調査報告. 林試研報133:1-128+1-16.
- 久内清孝, 1928. 相模国蛭ヶ岳附近の植物. 植物研究雑誌5:34-35.
- 神奈川県博物館協会編, 1958. 神奈川県植物誌. 258pp. 神奈川県博物館協会. 有隣堂.
- 神奈川県植物調査会編, 1933. 神奈川県植物目録. 111+23pp. 神奈川県植物調査会.
- 神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書. 神奈川県立博物館研究報告 自然科学7. 257+8pp. 神奈川県立博物館. 小田原.
- 神奈川県植物誌調査会編, 1988. 神奈川県植物誌1988. 1442pp. 神奈川県立博物館.
- 神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌. 1584pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 勝山輝男・高橋秀男・城川四郎・秋山守・田中徳久, 1997. 丹沢山地の種子植物・シダ植物. 丹沢大山自然環境総合調査報告書331-382. 神奈川県.
- 鈴木貞雄, 1978. 日本タケ科植物総目録. 384pp. 学習研究社. 東京.

黄色い花卉のあるウマノスズクサ科植物

(野津信子・佐々木シゲ子)

里山の植生が残っている舞岡(横浜市戸塚区)を2002年度の花ごよみの調査定点場所として決め、5月から月に2回ずつ二人で歩き始めた。横浜市営地下鉄舞岡駅より尾根づたいに歩き、雑木林の林床にハンノキ、コナラ、ムラサキシキブなどと混ざって、ツル状に1mくらい伸びたアオツツラフジの葉に似た草本を見つけた。そこにはほかにキリンソウ、ミヤマキケマン、コヤブタバコなどが生えていた。葉だけで花が咲かず、名前のわからないまま9月、10月、12月に標本を作製した。横浜植物会の巢山絃子さんが2003年5月8日に花の咲いた個体を子ども植物園に持参されたが、そこでは分からず、勝山先生に見ていただき、中国原産の薬用植物で中国名「馬蹄香(冷水丹)」、*Saruma henryi* Oliv. と同定していただいた。

多年生草本で茎はツル状に1mくらい伸び、葉は互生で有柄、葉身は有毛で基部は心形。花は茎の途中から単生し、直径約2cm。果実は蒴果で6分果からなり、各分果の中に約5個の先の尖ったトックリ状の種子がある。その種子は2

縦裂し、背面には多数の横紋がある。種子は幅約2mm、高さ約2.5mm。根茎は香料や薬(外用や胃痛薬)にされる。

どのような経緯で移入されたか今のところ定かでないが、最初に見つけた林床以外にも、道路をへだてた林縁にも生えており、鳥による種子散布によりその分布を広げつつあるのかもしれない。

小学館の園芸植物大事典によるとサルマ属 *Saruma* は1属1種なので和名はサルマとしておきたい。なお、*Saruma* 属は同科の *Asarum* (フタバアオイ属) の始めのAを語尾に持っていったアナグラム(綴り換え)と考えられる。標本は横浜市子ども植物園と県博におさめる。

参考文献

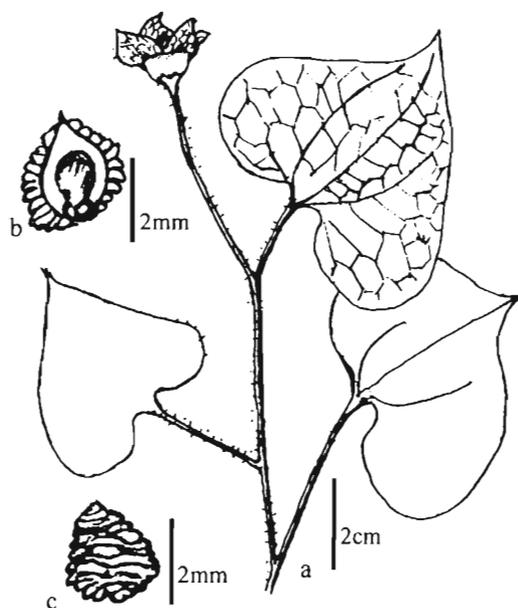
園芸植物大事典 小学館
中国高等植物 第3巻 青島出版会
中国高等植物図鑑 第1冊 科学出版

『神奈川県植物誌2001』に用いたデータによる市町村および地域メッシュごとの植物数

(田中徳久)

『神奈川県植物誌2001』(以下『神植誌01』と略記)が刊行され、2年が経過した。その間、FLORA KANAGAWAには、その訂正や新産植物の報告などが毎号掲載され、植物相調査に終わりのないことを思い知らされる。筆者も、各ブロックから集められた標本データベースの管理の過程で、いくつかの誤りを犯してしまった。正誤表のヒメアメリカアゼナの分布図差し換えなどはその一例であった。

昨年、『神植誌01』のためのデータを有効活用する意味で、「標本データを使った神奈川県の111個の地域メッシュによる植物地理」(田中徳久 2003 神博報、(32): 7-22)をまとめた際にもいくつかの誤りに気づいた。その最大のものは、『神植誌01』のどこを見ても、各地域メッシュごとの植物数や採集標本数が掲載されていないことである。当時は、レイアウト作業と版下の作成に忙しく、なんとか全県での植物数などのデータを掲載するのが精一杯であったが、やはり、これは不便である。そこで、『神植誌01』のた



サルマ。a: 果実をつけたツルの一部、
b: 種子(腹面)、c: 種子(背面)。

めに収集された標本に基づき、各地域メッシュごとの植物数について報告する。また、同時に同じデータを用い、市町村ごとの植物数も算出した。『神植誌01』では標本の採集地域メッシュが表記されていないことから、必ずしも『神植誌01』による・・・』とは言いがたいが、参考にさせていただければ幸いである。

『神植誌01』のために収集された標本データは、厚木市郷土資料館、神奈川県立生命の星・地球博物館、川崎市青少年科学館、相模原市立博物館、平塚市博物館、横須賀市自然・人文博物館、横浜市こども植物園に集積された標本を中心に250,812点に上る。それに掲載された分布図は、植栽品や3次メッシュの不備なものなを除いた245,190点のデータにより描画された。しかし、ここでは、分布図を掲載しなかった雑種などのデータや、採集地の3次メッシュは不明であるが地域メッシュは明らかであるデータ(ここでは地域メッシュによる集計が目的であるため)を再度加え、『神植誌01』の見出しと

された植物の標本データは247,828点により算出した。なお、田中(2003)も、地域メッシュごとに記録された分類群数を報告しているが、取り上げた対象種が一致していないため、本報告とは数が異なるので注意が必要である。

以下、表1に各ブロックの拠点標本館ごとの標本数を『神奈川県植物誌1988』のための調査時期(1979～1987年)を境に、年代別に集計し、表2に市町村・地域メッシュごとの植物数と採集標本数をまとめた。表2中の()内の数字は『神奈川県植物誌2001』で→を付された帰化植物の数を内数で示したものである。また、大山メッシュは秦野市、伊勢原市、厚木市を含むが、便宜的に伊勢原市として扱った。そのため、伊勢原市の植物数には、大山メッシュ中の秦野市、厚木市に生育する植物数が加算されており、秦野市、厚木市の植物数は、大山メッシュのみに産する両市の植物の数が除かれている。なお、絶滅扱いの種は、標本の記録がない場合はカウントされていない。

表1. 各ブロック拠点の標本数.

標本庫	-1978	1979-1987	1988-	計
厚木市郷土資料館	1916	8013	17773	27702
神奈川県立生命の星・地球博物館	13312	84035	23364	120711
川崎市青少年科学館	48	681	12300	13029
相模原市立博物館	1	8	3694	3703
平塚市博物館	47	22109	14717	36873
横須賀市自然・人文博物館	6886	8819	4983	20688
横浜市こども植物園	549	317	21252	22118
その他	48	650	2306	3004
合計	22807	124632	100389	247828

表2. 市町村・地域メッシュごとの植物数と採集標本数(次ページにつづく).

	植物数					合計	標本数
	シダ植物	裸子植物	単子葉植物	離弁花類	合弁花類		
藤野町	110(0)	11(0)	262(39)	491(58)	285(48)	1159(145)	3728
藤野-1	92(0)	9(0)	228(35)	428(47)	251(43)	1008(125)	1937
藤野-2	88(0)	8(0)	205(26)	398(37)	203(34)	902(97)	1791
相模湖町	109(0)	10(1)	238(32)	454(60)	250(49)	1061(142)	1659
城山町	126(0)	8(0)	249(41)	447(69)	231(57)	1061(167)	2079
津久井町	122(0)	12(1)	271(33)	576(59)	325(40)	1306(133)	7188
津久井-1	47(0)	7(0)	103(2)	239(1)	149(1)	545(4)	1208
津久井-2	35(0)	4(0)	81(4)	226(1)	148(2)	494(7)	862
津久井-3	73(0)	7(0)	139(9)	373(21)	202(23)	794(53)	1789
津久井-4	64(0)	8(0)	110(13)	343(27)	173(21)	698(61)	1346
津久井-5	70(0)	7(1)	158(22)	372(43)	190(29)	797(95)	1983

表2.(つづき).

	植物数						標本数
	シダ植物	裸子植物	単子葉植物	離弁花類	合弁花類	合計	
山北町	176(1)	15(1)	322(40)	621(71)	369(59)	1503(172)	12258
山北-1	35(0)	7(0)	107(4)	270(9)	142(3)	561(16)	1186
山北-2	52(0)	7(0)	83(0)	190(2)	130(2)	462(4)	775
山北-3	67(0)	9(0)	103(5)	237(3)	164(2)	580(10)	1758
山北-4	95(0)	9(0)	139(11)	326(14)	175(21)	744(46)	1647
山北-5	94(0)	6(0)	129(11)	340(21)	176(18)	745(50)	1448
山北-6	108(0)	10(0)	122(12)	356(23)	233(23)	829(58)	1932
山北-7	90(1)	8(1)	189(24)	359(45)	196(40)	842(111)	1567
山北-8	120(0)	8(0)	155(26)	361(41)	200(37)	844(104)	1945
南足柄市	209(2)	10(1)	269(35)	482(46)	290(49)	1260(133)	6457
南足柄-1	150(1)	6(0)	189(17)	387(22)	227(32)	959(72)	2581
南足柄-2	171(0)	8(0)	166(12)	320(22)	195(26)	860(60)	2037
南足柄-3	170(2)	7(1)	177(28)	303(35)	163(35)	820(101)	1839
開成町	15(0)	2(0)	121(24)	180(34)	93(32)	411(90)	671
松田町	131(0)	7(0)	203(34)	431(48)	247(46)	1019(128)	1805
大井町	83(0)	8(0)	176(31)	359(66)	184(43)	810(140)	1102
湯河原町	170(3)	11(2)	270(48)	486(77)	299(68)	1236(198)	4773
湯河原-1	149(0)	9(0)	199(38)	414(61)	235(46)	1006(145)	2527
湯河原-2	123(3)	11(2)	231(39)	417(62)	259(60)	1041(166)	2246
真鶴町	89(2)	8(0)	157(30)	326(46)	184(46)	764(124)	1616
小田原市	198(4)	12(2)	324(68)	599(115)	317(88)	1450(277)	8699
小田原-1	145(2)	10(1)	178(34)	357(42)	180(37)	870(116)	2196
小田原-2	144(3)	8(0)	203(39)	355(61)	185(46)	895(149)	1833
小田原-3	136(2)	10(1)	255(55)	437(93)	241(80)	1079(231)	2556
小田原-4	142(3)	10(1)	160(32)	363(46)	173(34)	848(116)	2114
箱根町	199(3)	13(1)	384(45)	570(66)	352(58)	1518(173)	10935
箱根-1	109(0)	7(0)	260(21)	383(24)	226(24)	985(69)	3108
箱根-2	72(0)	6(0)	138(11)	275(16)	169(25)	660(52)	1622
箱根-3	0(0)	0(0)	15(4)	4(1)	2(1)	21(6)	56
箱根-4	86(1)	8(0)	167(10)	309(16)	188(18)	758(45)	1979
箱根-5	160(3)	10(1)	231(30)	451(50)	255(44)	1107(128)	3136
箱根-6	68(1)	9(0)	143(15)	291(23)	183(32)	694(71)	1034
相模原市	107(3)	9(1)	352(99)	568(168)	323(127)	1359(398)	7486
相模原-1	83(2)	7(0)	254(61)	397(97)	214(78)	955(238)	2550
相模原-2	71(1)	5(0)	252(67)	372(102)	198(76)	898(246)	1750
相模原-3	62(1)	9(1)	195(52)	331(75)	185(67)	782(196)	1525
相模原-4	75(1)	7(0)	200(56)	368(97)	212(77)	862(231)	1661
清川村	119(1)	13(0)	292(49)	589(80)	353(76)	1366(206)	7676
清川-1	25(0)	10(0)	72(4)	193(2)	113(5)	413(11)	1295
清川-2	88(0)	9(0)	179(25)	427(40)	250(47)	953(112)	3342
清川-3	87(1)	11(0)	231(45)	483(66)	280(61)	1092(173)	3039
愛川町	114(1)	13(2)	306(58)	541(93)	307(78)	1281(232)	4892
厚木市	121(2)	12(2)	361(80)	623(139)	367(105)	1484(328)	20935
厚木-1	82(1)	8(0)	272(44)	427(66)	236(55)	1025(166)	6498
厚木-2	48(0)	8(1)	235(58)	379(100)	204(79)	874(238)	4059
厚木-3	63(0)	9(1)	197(40)	350(55)	203(58)	822(154)	2496
厚木-4	92(1)	10(0)	231(44)	470(67)	260(52)	1063(164)	4854
厚木-5	46(0)	8(0)	229(49)	362(82)	212(74)	857(205)	3028
座間市	91(2)	9(1)	290(73)	451(129)	262(104)	1103(309)	5160
大和市	82(2)	10(1)	271(74)	470(132)	257(94)	1090(303)	1586
海老名市	74(4)	9(1)	271(71)	454(124)	248(93)	1056(293)	3165
綾瀬市	81(2)	10(1)	251(74)	432(129)	214(93)	988(299)	3240
秦野市	157(3)	15(1)	352(70)	648(139)	391(104)	1563(317)	9419
秦野-1	25(0)	7(0)	83(9)	216(13)	134(7)	465(29)	741
秦野-2	111(3)	8(0)	210(32)	413(58)	245(47)	987(140)	2141
秦野-3	111(2)	10(0)	252(45)	469(78)	263(60)	1105(185)	1975
秦野-4	113(1)	10(0)	240(42)	479(80)	264(56)	1106(179)	2148
秦野-5	94(2)	7(1)	264(60)	439(110)	250(93)	1054(266)	2414
伊勢原市	142(2)	13(0)	306(67)	594(120)	365(91)	1420(280)	8373
伊勢原-1	129(1)	9(0)	216(41)	475(77)	298(60)	1127(179)	2598

表2.(つづき).

	植物数						標本数
	シダ植物	裸子植物	単子葉植物	離弁花類	合弁花類	合計	
伊勢原-2	50(1)	7(0)	217(57)	362(90)	208(70)	844(218)	1725
伊勢原-3	77(1)	8(0)	214(42)	390(74)	209(65)	898(182)	1879
大山	51(0)	11(0)	92(5)	247(11)	168(13)	569(29)	2171
平塚市	109(4)	10(1)	302(73)	515(143)	305(115)	1241(336)	5190
平塚-1	108(3)	9(0)	242(52)	456(111)	263(89)	1078(255)	2527
平塚-2	39(0)	7(1)	205(47)	318(94)	183(80)	752(222)	1404
平塚-3	18(1)	8(1)	211(52)	277(86)	168(83)	682(223)	1259
二宮町	97(2)	9(0)	206(51)	389(101)	215(73)	916(227)	1628
大磯町	132(2)	10(1)	260(59)	473(117)	262(85)	1137(264)	2493
中井町	107(1)	8(1)	224(49)	377(74)	220(70)	936(195)	2128
茅ヶ崎市	80(1)	8(1)	294(68)	463(128)	272(112)	1117(310)	2949
茅ヶ崎-1	77(0)	8(1)	249(54)	394(100)	229(86)	957(241)	1382
茅ヶ崎-2	38(1)	6(0)	240(60)	361(107)	204(93)	849(261)	1567
寒川町	45(1)	5(0)	209(44)	309(78)	186(74)	754(197)	1204
藤沢市	102(1)	10(1)	332(75)	525(142)	302(110)	1271(329)	5724
藤沢-1	63(0)	10(1)	226(48)	375(91)	215(80)	889(220)	1233
藤沢-2	73(1)	9(0)	254(54)	388(98)	223(78)	947(231)	1705
藤沢-3	71(1)	10(1)	261(58)	405(99)	243(85)	990(244)	1831
江ノ島	48(1)	3(1)	125(27)	230(46)	134(45)	540(120)	955
川崎市	132(4)	10(1)	400(99)	597(175)	363(141)	1502(420)	19986
多摩	105(3)	6(0)	287(59)	428(107)	247(82)	1073(251)	4998
麻生	100(3)	9(1)	304(69)	447(110)	274(93)	1134(276)	4343
高津	72(2)	4(0)	222(54)	350(88)	195(78)	843(222)	2432
中原	48(4)	6(1)	199(56)	339(101)	177(80)	769(242)	1811
宮前	78(2)	7(1)	196(46)	325(84)	181(61)	787(194)	2365
幸	37(1)	4(0)	144(40)	254(80)	131(59)	570(180)	1341
川崎	32(3)	1(0)	170(65)	269(107)	151(93)	623(268)	2696
横浜市	196(5)	11(2)	512(160)	797(278)	493(212)	2009(657)	47373
緑	148(1)	6(0)	297(61)	433(92)	253(76)	1137(230)	2978
青葉	89(1)	8(0)	273(62)	409(100)	259(81)	1038(244)	2343
都筑	56(0)	4(0)	244(59)	327(87)	205(82)	836(228)	2044
港北	52(3)	8(2)	173(46)	306(72)	155(65)	694(188)	1312
神奈川	54(3)	7(0)	196(50)	336(95)	203(85)	796(233)	1809
鶴見	66(3)	6(1)	237(66)	364(113)	228(98)	901(281)	2347
瀬谷	87(1)	7(1)	250(64)	441(130)	246(96)	1031(292)	4110
旭	134(3)	8(0)	245(38)	405(78)	237(62)	1029(181)	3422
保土ヶ谷	91(2)	6(1)	296(81)	459(127)	274(107)	1126(318)	4341
戸塚	75(2)	9(1)	233(52)	376(86)	219(78)	912(219)	2434
泉	75(1)	6(0)	218(52)	354(89)	185(71)	838(213)	2199
栄	84(2)	9(1)	289(68)	462(116)	263(97)	1107(284)	4396
西	37(1)	7(1)	176(55)	314(114)	177(94)	711(265)	1516
南	57(2)	7(0)	203(48)	367(85)	185(70)	819(205)	2342
中	50(1)	7(1)	211(83)	362(127)	202(102)	832(314)	2282
港南	65(2)	8(1)	238(60)	383(90)	218(85)	912(238)	2554
磯子	65(1)	6(0)	202(49)	357(81)	199(71)	829(202)	2169
金沢	111(3)	8(0)	268(67)	445(116)	254(96)	1086(282)	2775
鎌倉市	126(3)	9(2)	277(61)	488(104)	280(92)	1180(262)	6269
鎌倉-1	119(3)	9(2)	254(53)	447(93)	260(84)	1089(235)	4236
鎌倉-2	99(3)	6(0)	192(43)	340(63)	201(59)	838(168)	2033
逗子市	122(2)	8(0)	210(36)	370(50)	229(55)	939(143)	4024
葉山町	92(2)	10(1)	207(40)	336(48)	204(50)	849(141)	1797
横須賀市	116(3)	13(2)	315(60)	519(117)	320(98)	1283(280)	8939
横須賀-1	94(2)	9(1)	227(47)	413(92)	244(72)	987(214)	3021
横須賀-3	72(1)	6(1)	194(39)	294(55)	170(46)	736(142)	1493
横須賀-3	57(0)	8(2)	171(37)	269(58)	159(50)	664(142)	942
横須賀-4	77(3)	7(0)	222(36)	351(53)	206(46)	863(138)	2149
横須賀-5	69(0)	11(1)	208(39)	298(49)	174(49)	760(138)	1334
三浦市	66(3)	9(1)	251(49)	346(73)	243(78)	915(204)	3222
三浦	63(3)	8(1)	247(48)	339(70)	237(76)	894(198)	2605
城ヶ島	24(0)	3(0)	99(18)	148(22)	99(32)	373(72)	617

ウズマキウマゴヤシについて

(佐々木あや子)

最近出版された平凡社『日本の帰化植物』, 全農教『日本帰化植物写真図鑑』には, *Medicago orbicularis* (L.) Bartal. の写真が掲載され, それにウズマキウマゴヤシの和名が使われている。これは浅井(1954 東京歯科大学市川学報 2(1): 1-4)が神奈川県藤沢市産の標本を *M. orbicularis* と同定し, 和名を新称したのを踏襲したものと思われる。しかし, 神植誌2001で報告したように, 科博に納められている浅井が参照した標本を見ると *M. orbicularis* ではなく *M. scutellata* (L.) Mill. であるので, 浅井が報告したウズマキウマゴヤシの実体は *M. scutellata* である。

また, 長田が北隆館『日本帰化植物図鑑』に図示しているものは, *M. orbicularis* の学名を当てているが, 上記の浅井の標本を引用しており, *M. scutellata* である。したがって, *M. orbicularis* には, まだ和名がないことになり, 新たな和名が必要になる。なお, *M. scutellata* には, 別名, カギウソウの和名がある。

以下に両者の違いを簡単に示す。

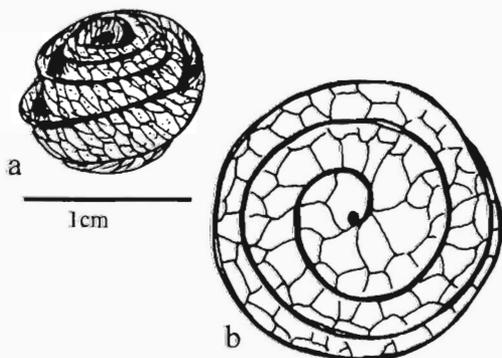
M. scutellata ウズマキウマゴヤシ

果実は径1~1.3cm, 6~7回縦に巻くため, 半球形に見える。刺はなく, 多数の横に連絡する脈が目立ち, 細毛がある。

末筆ではあるが, 兵庫県伊丹市の水田光雄氏より, 豆果を提供していただいた。御礼申し上げます。

M. orbicularis

果実は円盤状, 径1~1.8cm, 3~5回巻き, 刺はなく, 細脈があり, 熟した果実は無毛である。



a: *Medicago scutellata* ウズマキウマゴヤシの豆果, b: *M. orbicularis* の豆果。

日本新産の帰化植物サヤシロスゲ

(勝山輝男)

2002年5月22日, 会員の平川恵美子さんに案内していただき, 中山博子さんと3人で川崎市麻生区のヒレミヤガミスゲ *Carex brevior* (Dewey) Mack. & Lunell を見にいきました。ヒレミヤガミスゲを取材した後, もう1種異なるスゲ属植物があると聞き, それも見たいということになりました。

少し離れた公園の園路の土手にそのスゲ属植物がありました。少し根茎が横走していて, 高さ70cmほどの茎がやや疎らに立ち, 茎の基部の鞘部が白くて長いのがよく目立ちました。花序は長さ3cmほどで密に小穂をつけていました。これまでに見たことのないスゲ属植物で, 明らかに帰化によるものと思われました。少し離れた路傍の植え込みの中にも同じものが生えていました。いずれも土手に生えていることから, 緑化用の種子に混入して持ち込まれたことが推定されますが, 周囲は集合住宅の並ぶすっかりと落ち着いた街並みになっているので, 発芽後すでに何年もたっている可能性があります。

持ち帰って調べたところ, この植物は北アメリカ原産の *Carex gravida* L.H. Bailey var. *lunelliana* (Mack.) F.J. Herm. と判明しました。 *C. gravida* の果胞は長さ3.5-4mmありますが, その幅には変異があり, 果胞が卵形で幅が長さの1/2のものが var. *gravida*, 果胞が広卵形で幅が長さの3/4ほどあるものが var. *lunelliana* とされます。麻生区の植物は果胞が広卵形で幅広いので var. *lunelliana* としました。種としては北はカナダのオンタリオ州~合衆国のワイオミング州, 南はケンタッキー州~ニューメキシコ州にかけて分布しますが, var. *lunelliana* はやや南に偏って分布する変種で, ミシガン州, アイオワ州, カンザス州より南に分布します。

英名は Heavy Sedge ですが, 和名は鞘が白色を帯びることからサヤシロスゲと名付け, 神奈川県立博物館研究報告32号(2003)に日本新産の帰化植物として報告しました。平凡社の「日本の帰化植物」にも発見当日撮影した写真とともに掲載されているので, 形態の詳細はそちらをご覧ください。

花序は小穂を密につけ, 小穂は1節に1個ずつ

つき、基部に多数の雌花、上部に少数の雄花をつけているのでsect. *Bracteosae*に属します。日本産のものではミノボロスゲsect. *Multiflorae*に似ていますが、小穂が1節に1個ずつつき、乾いた場所に生え点が異なります。Sect. *Bracteosae*は北アメリカに多くの種があり、日本には在来はありませんが、勝山・中里(2000)が東京都多摩市からリーベンボルスゲ*C. leavenworthii* Deweyの帰化を報告しています。

文献

勝山輝男, 2003. カヤツリグサ科スゲ属の3種の日本新産帰化植物. 神奈川県立博物館研究報告, (32):1-6.

勝山輝男, 2003. カヤツリグサ科, 清水建美編, 日本の帰化植物. pp.293-301.

勝山輝男・中里秀行, 2000. 日本新産の帰化植物リーベンボルスゲ. 植物分類地理 51: 234-236.

新帰化植物, ズングリオヒシバ

(木場英久)

松本雅人さんが採集した日本新産の帰化植物ズングリオヒシバ*Eleusine tristachya* (Lam.) Lam.を、県博の紀要(木場2003)に報告しましたので紹介します。

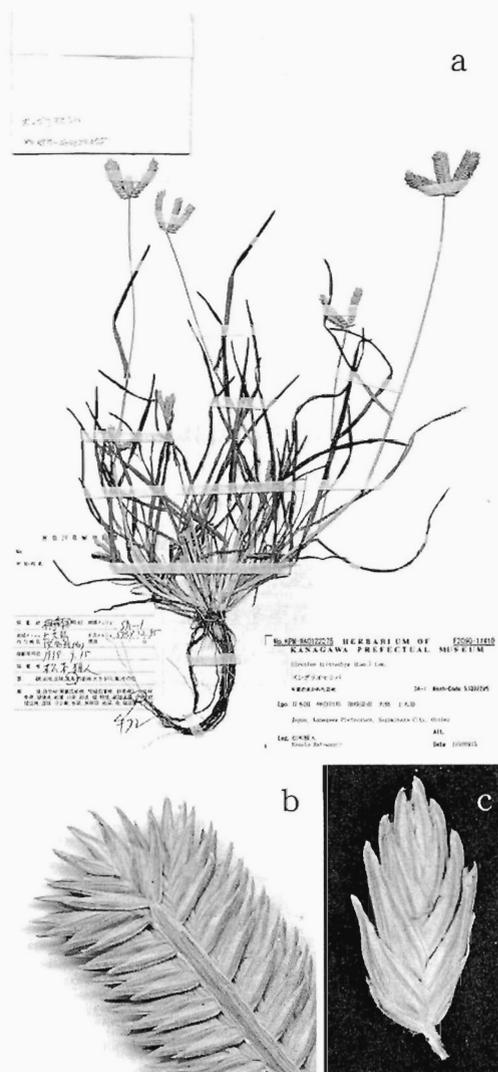
タツノツメガヤを連想させるような総状花序が数本、放射状についているのですが、穂状花序の先端まで小穂がついている点がタツノツメガヤ属とは異なります。太くて短いずんぐりとした総状花序をつけていたので、和名をズングリオヒシバとしました。南アメリカ原産の植物で、これまで北アメリカやアフリカに帰化していましたが、1998年、日本で初めて相模原市で採集されました。牛糞の堆肥を撒かれた畑の周辺で採集されたことから、牛の飼料に混ざって侵入したものと思われます。初めて採集したのは1998年以来、毎年生育を確認していることから、定着する可能性が高いと考えられます。

以下にズングリオヒシバの形態を記します。

まばらに叢生する一年草。稈は斜上し、高さ45cmに達する。葉身は長さ6-26cm、幅3-6mmで、まばらに開出毛が生え、急尖頭。花序は2から8個の短くて太い総状花序が短軸上に互生する。総状花序は楕円形から卵形で、長さ1.5-3cmで、斜上または開出し、青緑色でしばしば灰色を帯

び、総状花序の中軸は細い翼がある。小穂は、卵形で、長さ7-11mm、5-15小花を含む。苞穎は竜骨に翼があり、第1苞穎は1脈、第2苞穎は3脈。外穎は狭卵形で、長さ3.3-5.2mmで、先端は鈍頭で微突形、竜骨はざらつく。内穎に2竜骨があり、それらはざらつく。穎果は熟すと果皮がはがれやすく、種子表面には粗い畦状の縞がある。葯は長さ約1mm。

標本: 神奈川県相模原市大島上大島: Sep. 5, 1998, 松本雅人 (KPM-NA0122274); Sep. 15, 1998, 松本雅人 (KPM-NA0122275); Sep. 28, 1998, 松本雅人 (KPM-NA0122276).



ズングリオヒシバ. a: 全体, b: 総状花序の先端, c: 小穂.

文献

木場英久・松本雅人, 2003. 神奈川県立博物館研究報告自然科学, (32): 69-70.

Phillips, S., 1972. Kew Bull., 27(2): 251-270.

Phillips, S., 1995. Eleusine. In Hedberg, I. & S. Edwards, eds., Flora of Ethiopia and Eritrea, vol.7 Poaceae, pp. 138-142. Upsala, Sweden.

セイヨウチャヒキ

(木場英久)

つくば市にある中央農業総合研究センターで雑草を研究されている浅井元朗さんが県立博物館に標本を見に来られました。そのときに下記の標本を *Avena strigosa* Schreb. と同定されました。『植物誌2001』にない種なので解説します。

採集者名をみると、松本・歌川・佐藤・・・う～む。いかにも目の鋭い方々が並んでいますね。とくに松本さんの採集品は、米軍キャンプのフェンス脇なんて、いかにも帰化植物であることを確信して採集したものだろうと思います。

Avena strigosa はセイヨウチャヒキのほか、ストリゴースエンバク、ヘイオーツ、ブラックオートなどとよばれます。おそらく *A. longiglumis* Durieu に由来する栽培植物であるとされ、ヨーロッパ原産で、北アメリカやオーストラリアなどに帰化しています。

日本にも帰化していて、浅井さんによると、線虫の増殖を抑えるために野菜畑などで栽培されるので、野菜産地周囲では逸出していると考えられるそうです。

Tutin et al. (1980 Flora Europaea 5: 206-208) などを見ると、マカラスムギ *Avena sativa* L. と同じく、熟しても小花が脱落しない性質をもっているが、マカラスムギが護穎の先が2裂しないか、ごく浅く裂けるのに対して、セイヨウチャヒキは図のように3~9mm ぐらいの芒状になるという違いがあるようです。ミナトカラスムギ



セイヨウチャヒキの小穂

Avena barbata Pott ex Link とは、熟しても小花が脱落しないこと以外の違いが書かれていませんでした。

浅井さんの同定された標本を見ると、小穂はマカラスムギより小さく、苞穎が閉じていて小花が見えず、苞穎の外まで伸びだした芒は1本で、護穎に毛がないなどの特徴がありました。同じように外穎の先端が芒状に伸びるミナトカラスムギの標本と比べると、ミナトカラスムギのほうが小穂が大きく、護穎に毛があるなどの違いがありました。県博の標本を見る限り、セイヨウチャヒキはどちらの種とも区別できるものと思いました。

私はいまのところ県博の標本庫しか見ていません。もしかしたら他の標本庫でもマカラスムギの束の中に、セイヨウチャヒキが混ざっているかもしれません。貧弱なマカラスムギのような植物を見かけたら、セイヨウチャヒキの可能性を疑ってみてください。

標本: KPM-NA0116743 相模原市新磯野座間キャンプフェンス脇 1999.5.16 松本雅人, KPM-NA0119989 川崎市麻生区片平1660 2000.7.2 歌川道子, KPM-NA0114780 厚木市飯山千頭 1991.6.11 佐藤恭子。

2003年度総会報告

(事務局)

2003年度の総会は4月5日(土)に神奈川県立生命の星・地球博物館講義室で行われました。2002年度の事業報告、決算報告、さらに各ブロックの活動状況が報告され(各ブロックの活動状況については、後に掲載します)、2003年度の事業計画、予算が審議され可決しました。その後、高橋秀男氏に、神奈川県内の帰化植物について、勝山輝男氏にスゲ属の帰化植物についての講演をしていただきました。

●2002年度 事業報告

究史, 植物相の変遷, 横浜を基準産地とする植物, 巨樹, 巨木, 天然記念物, 街路樹や公園の樹木, 植物園の紹介, 暮らしの中の植物, 栽培植物, 植物方言, 横浜花の名所, 植物観察適地, RD植物などを網羅した植物誌となっている。

総会後に進展があり, 書名は『横浜の植物』, 版型A4, カラー図版32ページ, 本文約1300頁. 出版時期は7月と決まった. このような報告で, 総会ではほとんど横浜ブロックと横浜植物会のPRに終始したようであった. 詳細は横浜植物会事務局(11月15日現在)に問い合わせ下さい。

.....へお問い合わせ下さい。

各ブロックの活動報告

総会で報告されている各ブロックの活動を今回からフロラカナガワにも掲載しようということになりました. 以下の原稿は総会時に発表を担当された方にお願ひしました.

横浜ブロック(高橋秀男)

横浜ブロックはこども植物園(横浜市保土ヶ谷区)に, 毎月3~4回(不定期)有志が集まり, 『神奈川県植物誌2001』で収集した標本の整理, さらに出版後に新たに追加された標本の同定, マウント, 登録, 配架作業を実施している. また一部の会員は花暦の調査にも参加している.

採集した標本の整理と併行して今まで集積した標本のデータをベースにした『横浜植物誌』の刊行を企画, 準備を進めてきたが, このほどようやくまとまった. すでに県内の植物を網羅した『神奈川県植物誌2001』が出版された後でもあり, 同じような内容の縮小版では芸がないので, 少し趣向をこらし, 有用植物を含めた植物百科的な性格をもたせ, 教材としても役立つ内容を目指した. メインとなる維管束植物には検索表, 分布図のほか, 生育量, 識別に重要な形態の図, 『神奈川県植物誌2001』で収集した証拠標本を各区1点ずつ引用した. また18区の植物相の概要, コケ植物や海藻のフロラも付記した. そのほか, 地形, 地質, 植生, 分布の特徴, 研

川崎ブロック(吉田多美枝)

川崎ブロックの活動拠点青少年科学館(以下科学館)には, 川崎の自然を調査するボランティア団体「かわさき自然調査団」があり, その中の一分野として種子植物班(以下植物班)がある.

川崎ブロックに登録している神奈川県植物誌調査会会員の多くは調査団の植物班に所属している. そのため川崎ブロックの活動は植物班の活動と同じである場合が多い.

1. 市内各区の未採集種の採集

「神植誌2001」に記載の漏れた植物も多くこれらの補充を14年度の活動の一部にした. 採集はおもに調査会員が個々におこなったが, 学習をかねて調査団の活動としてグループでも実施した. 採集品の乾燥とラベルの記入は採集者がおこない, 乾燥標本はラベルを添えて科学館に届けた. 届けられた標本は同定(主として筆者)ののち植物班全員によりa)~c)の作業を経て収蔵庫に収納した.

a) 標本の作成(ラベル貼り, 台紙貼り付け, 科属コード記入)

b) コンピューター登録

c) ファイルに差し込み・収蔵庫に収納

2. 標本の永久保存を目指した収蔵庫の整理

a) 標本の増加に伴いファイルの単位を属から種に変更した.

b) 既存の標本の補修(一部標本の台紙交換・貼りなおし・泥など付着物の除去)

c) 黴の除去(無水アルコールによる殺菌と清拭)

d) パラゾールの交換

II. 調査結果

青少年科学館収蔵・区別種子植物標本数

地区	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	計
1995年以前	178	37	24	102	64	1,763	689	2,857
1996年以後	1,593	691	1,373	986	545	1,203	1,151	7,542
計	1,771	728	1,397	1,088	609	2,966	1,840	10,399

青少年科学館収蔵・区別種子植物種数

地区	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	市内総集数
1995年以前	18	12	3	19	10	238	28	56
1996年以後	335	347	627	583	611	613	950	1,181
計	353	359	630	602	621	851	978	1,237

川崎で確認できた区別種子植物種数

地区	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	市内総集数
1995年以前	163	178	98	153	77	372	97	198
1996年以後	460	375	642	637	647	642	972	1,253
計	623	553	740	790	724	1,014	1,069	1,451

※(他館収蔵の川崎関連種子植物標本を含む)

3. 未整理標本の整理

未整理標本が多数あるため、これらを完成標本にし収納するための各種作業

4. その他

- 青少年科学館の特別展示の企画・制作(2002年は“たね展”)
- 常設展示場の壁掛け、植物のイラストの作成と交換(生田緑地の植物を随時)
- 生田緑地の植物観察会の解説(毎月第1日曜日)
- 一般市民と連携した調査・マツの分布調査(対象地域・川崎市全域)をおこなった

活動日は概ね毎週水曜日としているが、必要に応じて他の日も活動している。また上記調査及び作業は全て参加者が自発的に行っているものである。

三浦ブロック(大森雄治)

2002年度の三浦ブロックでは、中山博子さん・橋本治子さん・中村昌子さんが標本の登録と台帳記入(横須賀市博物館の資料台帳)、配架作業を月1回の頻度で行った。また、堀内 洋さん・佐藤恭子さんが標本の同定と配架を手伝って下さった。

2003年度は6月から12月まで月1回の野外調査を、三浦ブロック調査会員有志で葉山・城ヶ島・猿島で行う予定。

湘南ブロック(浜口哲一)

湘南ブロックでは、毎月第4木曜日を定例活動日とし、おもに野外観察会を行っている。2002年度は、講師を招き、特定のグループについて教えて頂く機会を多く持った。また、この他に木曜日を中心に有志で平塚市博物館に集まり、標本の台紙貼りや、実と種子の標本整理などを行った。

なお、8月21・22日の両日、平塚市博物館主催の自然観察ゼミナール「植物の分類入門」が開かれ、受講者の中から数名の新入会員が生まれた。

- | | |
|--------|---------------------------|
| 3月28日 | 室内(平塚市博/年間打合せ) |
| 4月25日 | 野外観察(蓑毛～春岳沢/春の花) |
| 5月23日 | 野外観察(平塚市土屋/春のイネ科植物/木場英久氏) |
| 6月27日 | 室内(平塚市博/イネ科植物の観察) |
| 7月25日 | 野外観察(藤沢市大庭/樹木の観察/長谷川義人氏) |
| 9月26日 | 野外観察(平塚市馬入水辺の楽校/身近な野草) |
| 10月24日 | 野外観察(伊勢原市日向薬師/大場達之氏) |
| 11月28日 | 野外観察(渋沢丘陵/タケササ類/城川四郎氏) |

- 1月23日 室内(平塚市博/年間打合せ・冬芽の話)
 2月27日 野外観察(大磯町高麗山/シダ入門/中山博子氏)
 3月27日 野外観察(藤沢市川名/開く冬芽)

厚木ブロック(佐藤恭子)

●厚木ブロック2002年度の活動

- ①フロラカナガワ総索引のデータ入力作業
- ②高橋秀男先生による同定会
- ③標本の状態のチェック,ブロック内の補充調査

●厚木ブロック2003年度の活動予定

厚木市郷土資料館の耐震工事のため,活動は12月以降になる予定

- ①メッシュ別採集一覧に無い種の追加標本を収集(随時)
- ②会員の同定力向上のための室内作業
- ③高橋先生による同定会
- ④標本の状態などのデータ整備.新分類に対応

●厚木植物会について

神奈川県植物誌調査会の会員を中心に厚木植物会(会長:諏訪哲夫氏)が発足(1997年).

会独自の活動と共に,植物誌調査会県央ブロックと連携した活動をしている.02年度の活動ならびに03年度の予定は以下の通り.

- ①観察会の開催(月1回).03年度は新入会員に対するフォローアップ観察会も計画している.
- ②講演会「花ごよみの作り方と大山の花ごよみ」(02年1月・浜口哲一氏)
- ③2003年度は会員の10名ほどが植物誌調査会の「花ごよみ調査」に参加.
- ④会報の発行

相模原ブロック(秋山幸也)

相模原ブロックでは,第2,第4木曜日を中心に標本整理作業を行い,月1~2回程度,市内外に野外観察へ行っています.また,2か月に一度,市内勝坂遺跡の草地植生調査を行っています.昨年度は,標本整理の一つの成果として『相模原植物誌I-標本目録-』の刊行にこぎつけました.これをたたき台に,標本庫をいっそう活性化していきたいと思っております.

活動人数が多くなく,エリアも比較的狭いため,「その日の気分」で動くこともしばしばで

す.また,ブロック担当者の分類能力が他と比べて極端に低いため,会員みなさんの互助努力によって活動が支えられています.

不定期的な活動が多い相模原ブロックですが,そこは何か月1回発行の「NEWSLETTER」でしのいでいます.分類に役立つような記事はめったに載りませんが,ブロックの活動を垣間見ることができると思います.他地区の方にもお配りしていますので,ご希望の方はブロック担当者(相模原市立博物館 秋山幸也 042-750-8030)までご連絡ください.また,『相模原植物誌I-標本目録-』は,600円で販売しております.通信販売のシステムがありませんので,ご希望の方は秋山へ直接お申し込みください.併せてご連絡お待ちしております.

相模原市立博物館資料目録5 相模原植物誌I-標本目録-.2003年3月.相模原市立博物館発行.A4版178p.価格600円(税込)

FLORA KANAGAWA No.54の訂正

(事務局)

前号に掲載された堀内洋さんの原稿p.648で図1の説明を以下に差し替えてください.下線部が編集の途中で脱落してしまったようです.ご迷惑をおかけしました.

図1:2年以上生育しているキバナノマツバニンジンの根もと.株もと中央に前年の枯死した茎の残存が認められ,当年生の茎は基部で横に展開してから直立していることが判る.

標本:川崎市多摩区東生田4丁目1995.6.30 吉田多美枝 KPM-NA1107696.

編集後記

今号は手に取るとずっしりと重いですよ.32ページもあります.たくさんの方が投稿してくださったおかげですが,表紙の写真がちよっと狭苦しそうですね.

県立博物館では7月19日から移入生物の特別展を開催します.今号を編集するのと,図録の執筆がかち合ってしまったのですが,迫り来る図録の締め切りを横目に見つつ,現実逃避をしてFLORA KANAGAWAのレイアウト・校正を先にしてしまいました.